

沖冠
嶺著

十八史略譯解

七

特31

732

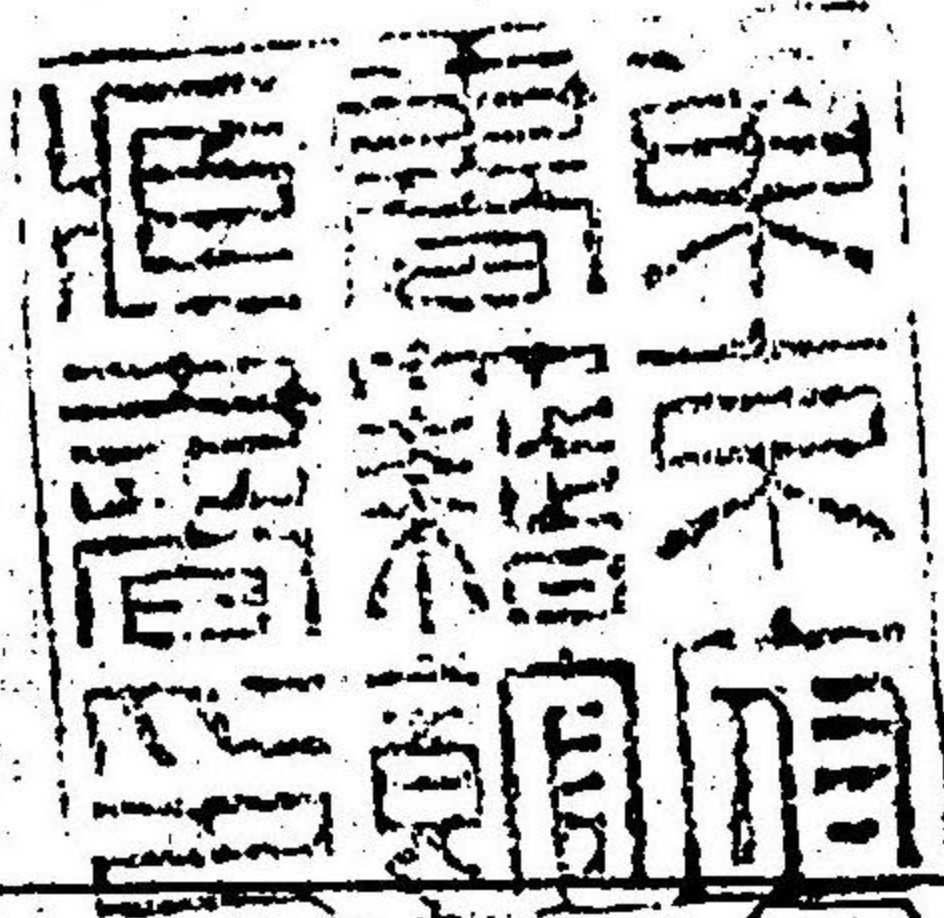
共十三冊

館藏世會育教本日大

室 第

一	五	二
二冊	四號	五架
		九函

特31
732



沖冠嶺著十八史略譯解卷之七

東京 冠嶺沖正脩編輯

○隋 楊堅、隋王ト為テ、禪ヲ受ケ、遂ニ

隋ヲ以テ國号ト為ス、長安ニ都

トシ、高祖文帝ノ姓ハ楊氏、名ハ堅、弘農ノ人

ナリ、相傳フ、東漢ノ太尉震ノ後ト為

ス、父忠、魏及ヒ周二仕ヘ、功ヲ以テ隋

公ニ封セラル、(震ノ後)震、四世ノ孫ト

卷之七

十八史略譯解卷之七

隋文帝

一

異アリ紫氣庭
ニ充ツ文手ニ
在ルアリ王ト
日フ厄女僧ヲ
尼ト日フ

普六茹三字姓
本姓ハ楊魏ノ
恭帝ノ時此姓
ヲ賜フナリ

晦匿沈晦隱匿
ス

渠、鉉ヲ生ム、鉉、元壽ヲ生ム、元壽、惠假
ヲ生ム、惠假、烈ヲ生ム、烈、積ヲ生ム、積、
忠ヲ生ム、乃チ堅、爵ヲ襲ク、堅、生レテ
帝ノ父ナリ
異アリ、宅ノ傍ニ泥持アリ、一尼抱キ
帰テ、自ラ之ヲ鞠ス、一日尼出ツ、其母
ニ付ノ自ラ抱シム痛出テ鱗起ル、母
大ニ驚テ之ヲ地ニ墜ス、尼心動ク亟
ニ還リ、之ヲ見テ日ク、我カ兒ヲ驚ス、
晩ク天下ヲ得ヤシムルヲ致スト、長
スルニ及テ、相表奇異ナリ、周人韜王嘗
テ武帝ニ告ク、普六茹堅、及相アリト、
堅、之ヲ聞テ深ク自ラ晦匿ス、女、周ノ

〔庶子〕庶母ノ子
〔獨孤〕覆姓

宣帝ノ后ト為ル、周ノ靜帝立ツ、堅、太
后ノ父ト云ヲ以テ、政ヲ秉ル、遂ニ周
ノ祚ヲ移ス、位ニ即キ九年ニ、陳ヲ平
ケテ、天下一ト為ル、開皇二十年、太子
劼ヲ廢ゾ庶人ト為ス、初メ帝、勇ヲメ
政事ヲ參決ヤシム、時ニ損益アリ、勇、
性寬厚ナリ、率意ニ矯飾ナシ、帝、性
節儉ナリト、勇、服用侈レリ、恩寵始テ
衰フ、勇、内寵多シ、妃、寵ナクノ死ス、而
庶子多シ、獨孤皇后、深ク之ヲ惡ム、
晋王廣、弥自ラ矯飾ス、嫡ヲ奪フノ計

〔王通〕姓名、後門
 入私ニ謚ヲ、文
 中子ト曰フ干
 二策條目、未ク
 詳ナラス、文中
 子述史篇ニ、董
 常ノ曰ク、子カ
 十二策、奚ヲカ
 稟タルヤト、子
 曰ク、天道アリ
 地道アリ、人道
 アリ、此レ其稟
 ナリト、注ニ、策
 公、今マ亡タリ
 ト不諱ノ後事
 フ擬ス擬ハ、度
 ナリ、擬度ノ以
 テ待ツナリ、不
 諱バ、死ヲ謂フ
 ナリ、死ハ人ノ
 常ナリ、故ニ不
 諱ト言フナリ

ヲ為ス、后、帝ヲ贊テ勇ヲ發セシム、而
 ノ廣ヲ立テ、太子ト為ス。○龍門ノ
 王通〔龍門〕縣、河中ニ屬關ニ詣テ、太子
 ノ十二策ヲ獻ス、帝、用ユル能ハス、罷
 帰ル、河汾ノ間ニ教授ス、弟子遠ヨリ
 至ル者甚ク衆シ〔汾〕水、太原府、晉陽山
 西南ニ出テ、河ニ
 入。○仁壽四年、帝、不豫ナリ、太子ヲ召
 ス、入テ殿中ニ居ル、太子預シメ帝ノ
 不諱ノ後事ヲ擬ス、書ヲ為テ、僕射楊
 素ニ問フ、報ヲ得タリ、官人、誤テ帝ノ
 所ニ送ル、帝、之ヲ監テ、大ニ恚ル、帝ノ

〔畜生〕罵辭、其ノ
 無識無礼、馬牛
 犬豕ノ若ク然
 リ、畜養ヲ待テ
 生スル者ヲ言
 フナリ
 〔右庶子〕東宮ノ
 官名、左右中ノ
 三等アリ

寵スル所ノ陳夫人、出テ、更衣ス、太
 子ノ為メニ區ラレ、之ヲ拒テ免ルヲ
 得タリ、帝、其神色異アルヲ怪テ、故ヲ
 問フ、夫人泣然トシテ曰ク、太子無礼ナ
 リト、帝、恚テ床ヲ抵テ曰ク、畜生何ソ
 大事ヲ付スルニ足ラン、獨孤、我ヲ誤
 ルト、將サニ故ノ太子勇ヲ召サント
 ス、廣之ヲ聞テ右庶子張衡ヲソ入テ
 疾ニ侍セシム、曰テ帝ヲ弑シ、入ラノ
 勇ヲ繼リ殺ス、帝、性嚴重ニシテ政事ヲ
 勤ム、令行ハレ、禁止ム、財ニ儉ナリト

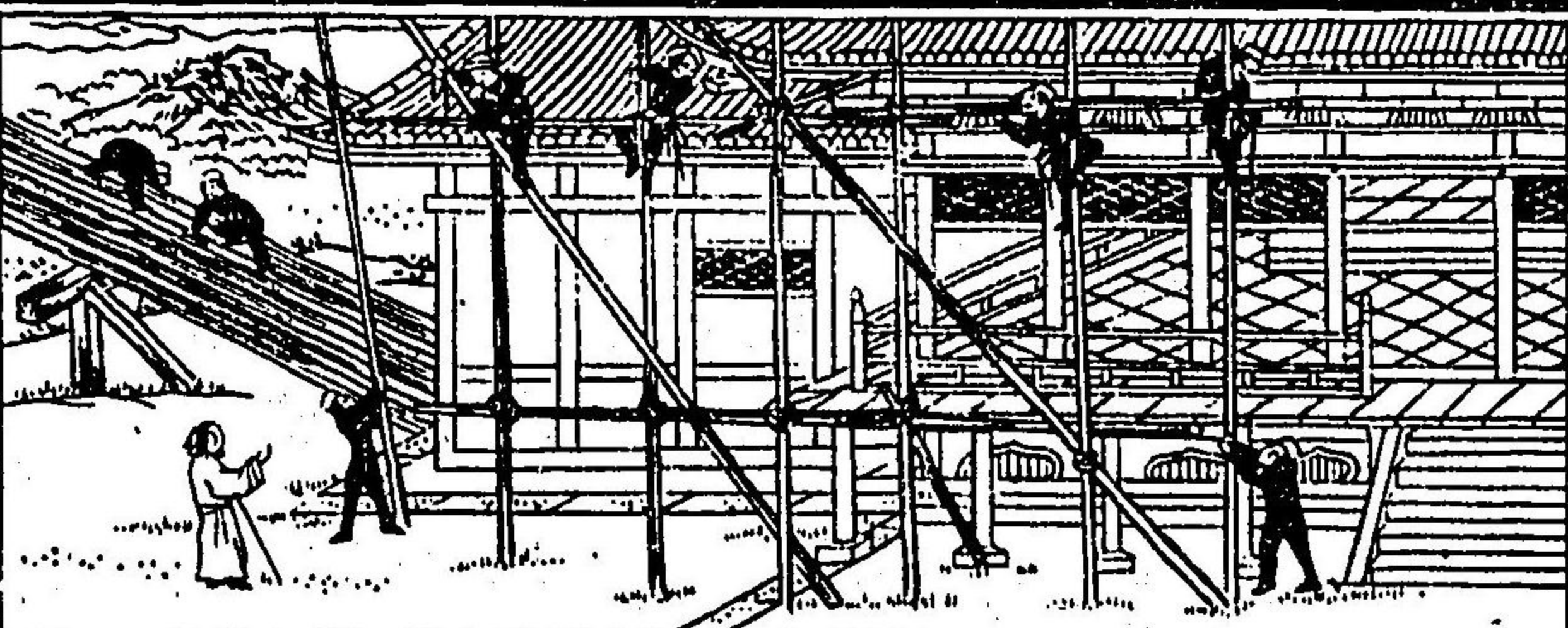
〔客ナラス〕有功ヲ賞スルハ、則チ各惜セス

〔通濟渠〕渠ハ、名ナシ

雖モ、功ヲ賞ノ客ナラス、百姓ヲ愛養シ、農桑ヲ勸課ス、徭ヲ輕クシ、賦ヲ薄クシ、自ラ奉スル儉薄ナリ、天下之ニ化ス、受禪ノ初メ、民戸、四百万ニ滿タス、末年ニ八百万ニ踰ユ、然レモ自ラ詐カクテ以テ天下ヲ得、猶忌苛察ニソノ讒言ヲ信受ス、功臣故舊終始保全スル者ナシ、在位二十四年、改元スル者ニツ、曰ク、開皇、仁壽、太子立ツ、是ヲ煬皇帝ト為ス

〔煬皇帝〕名ハ、廣、開皇ノ末、立テ太子ト為

頭仁宮ヲ營ム圖



ル、是ノ日、天下地震ス、位ニ即テ、首トノ洛陽ノ頭仁宮ヲ營ム、江嶺ノ奇材異石ヲ發ス〔江嶺〕通鑑ニ、大江以南、五嶺、衡山ノ南ヨリ海ニ窮ル、一山ノ限ノミ、名ヲ標スレハ則チ五ツアリ、大慶、始安、臨賀、桂又海内ノ嘉木異草、珍禽、奇獸ヲ求メ、以テ苑圃ニ實ツ、又通濟渠ヲ開キ、長安ノ西苑ヨリ穀洛ノ水ヲ引キ、河ニ達シ、河ヲ引テ汴ニ入レ、汴ヲ引テ泗ニ入レ、以テ淮ニ達ス〔汴〕延州、陽城縣、滎蕩渠ニ出テ、下邳又民ニ至リ、泗水ニ會メ、淮ニ入ル又民ヲ發シ、刊溝ヲ開テ、江ニ入レ、〔刊〕水、廣

御道ニ柳ヲ樹ル園



リ傍ニ御道ヲ築キ、樹ルニ柳ヲ以テ
 ス、長安ヨリ江都ニ至ルマテ、離宮ヲ
 置久、四十餘所〔江都〕縣、揚人ヲ遣シ、江
 南ニ往キ、龍舟及ヒ雜船數万艘ヲ造
 ル、以テ遊幸ノ用ニ備フ、西苑周ニ百
 里、其内、海ヲ為ル、周十餘里、蓬萊、方丈、
 瀛州ノ諸山ヲ為ル、高サ百餘尺、臺觀
 宮殿、山上ニ羅絡ス、海ノ北ニ渠アリ、
 滌滌ノ海ニ注ク、渠ニ縁テ十六院ヲ
 作ル、門皆ナ渠ニ臨ム、華麗ヲ窮極ス、
 宮樹凋落スレハ、剪綵ヲ以テ花葉ヲ

〔離宮〕往來遊幸
 スルヲ離宮ト
 曰フ觀樓觀、輝
 名ニ曰ク觀ハ
 上ヨリ觀望ス
 ルナリ〔菱〕菱ノ
 別名〔菱〕菱頭、亦
 雅翼ニ、葉、荷ノ
 如クシ、大ナリ、
 葉上ニ感、刺ノ沸
 コトシ、芒刺アリ、
 以テテ鬚アリ、
 鶏ノ頭ノ名若
 ヲ、又雁ノ頭ト名

為テ之ヲ綴ル、池内モ亦剪綵ノ荷菱
 菱、菱ヲ為ル、色、渝、ハ則チ新者ニ易
 フ、好テ月夜ヲ以テ、宮女數千騎ヲ從
 ヘ、西苑ニ遊ヒ、清夜遊ノ曲ヲ作り、馬
 上ニ之ヲ奏ス○後、又永濟渠ヲ開キ、
 沁水ヲ引キ、南ノ方河ニ達ス、北ノ方、
 涿郡ニ通ス、又汾陽宮ヲ營ム〔沁〕水、沁
 テ、晉、絳、澤ノ三州ヲ歴テ南シ、河、又江
 南ノ河ヲ穿テ、京口ヨリ餘杭ニ至ル、
 八百里〔餘杭〕縣、杭○各口倉ヲ鞏東南
 ノ原上ニ置ク〔鞏〕縣、河南倉城ノ周ニ

〔石〕斗十ヲ、石ト
ナス〔散樂〕部伍
ノ正色ニ非ル
ナリ、其ノ雜戲
ニ、魚龍、爛漫、俳
優、侏儒、山車、巨
象、板井、種瓜等
アリ、奇怪異端
百有餘物、故ニ
隋ヨリ以來、之
ヲ百戲ト謂フ
〔蕃〕夷秋ヲ蕃ト
曰フ、〔端門〕君ノ
正門ヲ端門ト
曰フ、〔絲竹〕絃ヲ
絲ト曰ク、管ヲ
竹ト曰フ

十餘里、三千窖ヲ穿テ、興洛倉ヲ洛陽
ノ北ニ置ク、倉城ノ周十里、三百窖ヲ
穿テ、窖皆ナハ千石ヲ容ル、帝、或ハ洛
陽ニ如キ、或ハ江都ニ如キ、或ハ北巡
ノ榆林、金河ニ至リ、或ハ五原ニ如キ、
長城ヲ巡ル〔榆林〕縣、雲中ニ屬ス、或ハ
河右ヲ巡ル、營造巡遊、虛歲ナシ、天下
ノ鷹師ヲ徵ス、萬餘人、天下ノ散樂ヲ
徵ス、諸蕃來朝スレハ、百戲ヲ端門ニ
陳ス、絲竹ヲ執ル者萬八千人、月ヲ終
テ罷ム、費巨萬、歲以テ常ト為ス○高

〔軍須〕軍中ノ須
ユル所ニ供給
ス、須ハ、資ナリ
用ナリ

〔船艦〕船後ヲ、船
ト曰ク、船前ヲ、
艦ト曰フ

麗王ヲ徵テ入朝セシム、至ラス、大業
七年、帝、自ら將トシ、高麗ヲ擊ツ、天下
ノ兵ヲ徵シ、涿郡ニ會ス、河南、淮南、江
南ニ教メ、戎車五萬乘ヲ造ル、衣甲等
ヲ供給シ、河南、河北ノ民夫ヲ發シ、軍
須ニ供ス、江淮以南ノ民夫、船ヲ黎陽
及ヒ洛口ノ諸倉ノ米ヲ運フ〔黎陽〕縣、
屬舳艦千里、往還スル常ニ數十萬人、
晝夜絶ヘス、死スル者相枕ス、天下騷
動シ、百姓窮困ス、始テ相聚リ盜ヲ為
ス○漳南ノ竇建德カ兵起ル〔漳〕水ノ

○鄴道元、北史
ニ字ハ善長、学
ヲ好ミ奇書ヲ
登覽シ、水經四
十卷ヲ撰注ス

ニアリ、一ハ上黨治縣、大並谷ニ出ツ、
名ツケテ清漳ト為ス、一ハ上黨長子
縣ノ廣谷山ニ出ツ、名ツケテ濁漳ト
為ス、鄴道元之ヲ衡水ト謂フ、東、鄴ニ
至リ、清漳ニ合シ、東北シ
○帝ノ徵ス
阜城ニ至リ、河ニ入ル
所ノ四方ノ兵、皆ナ涿郡ニ集ル、一百
一十三万、餽運スル者之ニ倍ス、首尾
千餘里ニ亘ル、帝、遼東ニ至ル、城ヲ攻
テ克クス、諸軍大ニ敗テ還ル、明年再
ヒ兵ヲ徵ス、自ラ將トシ之ヲ擊ツ○
楚公楊玄感、朝政ノ日ニ紊ルヲ見テ
潜ニ亂ヲ作シテ謀ル、是ニ至テ、黎陽
ニ督運ノ遂ニ反ス、帝、車ヲ引テ還ル、

李密黄牛ニ乘リ漢
書ヲ讀ム圖



將ヲ遣テ之ヲ擊タシム、玄感、洛陽ヨ
リ兵ヲ引テ、潼關ニ趨ル、兵敗テ走死
ス、帝、又涿郡ニ如キ、高麗ヲ伐ツ、高麗
使ヲ遣シ降ヲ請フ、帝、長安ニ還ル、已
テニソ洛陽ニ如キ、汾陽ニ如キ、江都
ニ如キ、巡遊仍ヲ屢歲ナシ○蒲山公
李密、カ兵起ル蒲山、網目ノ實實ニ、蒲
山ハ、縣未タ、處所ヲ詳
ニヤス、唯嘉興府、平湖縣ノ東南三十
里ニ蒲山アリ、海辺ニ頻ス、未タ是否
ヲ知ス、密、少ヨリ才畧アリ、志氣雄遠ニ
シ、財ヲ輕シ、士ヲ好ム、嘗テ黄牛ニ乘
リ、漢書ヲ以テ牛ノ角ニ掛テ之ヲ讀

〔桃李子云々〕走
 一、繞ニ作ル
 皇ト后ト皆ナ
 君ナリ揚州ハ
 即チ江都ナリ
 宛轉ハ遊宴流
 連ノ状ヲ謂ス
 言ハ、李密、潜ニ
 乱ヲ作スヲ謀
 知ラ、帝自ラ
 園ノ中ニ遊樂
 ノ反ヲ忘ル
 人ノ謂ス、浪ハ、
 卒ナリ許ハ、語
 助ナリ

△、楚公楊素ラ素、初ノ越國ニ封セ遇
 テ之ヲ奇トス、是ニ由テ素カ子玄感カ
 ト游ス、初ノ玄感ニ從ヒ兵ヲ起ス、玄
 感敗ル、密、姓名ヲ變ノ亡カ匿ル、時ノ人
 皆云フ、楊氏將サニ滅セントス、李氏
 將サニ興ラントスト、又民謡アリ、歌
 テ曰ク、桃李子、皇后走ニ揚州、宛轉花園、
 裏勿浪語誰道、許ト桃李子ト謂フハ、
 逃亡ノ李氏カ子ナリ、勿浪語誰道、許
 トハ、密ナリ、密遂ニ群盜翟讓等ト起
 テ、東陽ヲ攻テ之ヲ下ス、牙ヲ建テ、所

可汗北方君長
 ノ号

部ヲ統テ、西行シ、説テ諸城ヲ下シ、大
 ニ獲タリ○鄱陽ノ賊帥、林士弘、楚帝
 ト稱シ、江南ニ據ル鄱陽縣、饒州ニ屬ス○杜伏
 威、登陽ニ據ル○竇建德、長樂王ト稱
 ス○馬邑ノ校尉、劉武周、朔方ノ郎將、
 梁師都、各郡ニ據テ、兵ヲ起ス○李密、
 興倉ニ據ル、河南ノ諸郡ヲ略取シ、魏
 公ト稱ス○突厥、劉武周ヲ立テ、定
 陽可汗ト為ス、樓煩、定襄、雁門ノ諸郡
 ヲ取ル樓煩、山西ニ屬ス○梁師都、雕陰、
 弘化、延安等ノ郡ヲ取ル、自ラ梁帝ト

蕭銑後梁、宣
帝、曾孫

稱ス〔雅陰〕陝西ニ屬ス、即チ上郡〔弘化〕、
 西ニ屬ス、今ノ慶陽府〔延安〕、陝
 ノ延州府、今○金城ノ校尉、薛舉、兵ヲ
 龐西ニ起ス、自ラ西秦ノ霸王ト稱ス
 ○武威ノ司馬、李軌、兵ヲ河西ニ起ス、
 自ラ涼王ト稱ス○薛舉自ラ秦帝ト
 稱ス、徙テ天水ニ據ル○蕭銑、兵ヲ巴
 陵ニ起ス、自ラ梁王ト稱ス○唐公李
 淵、兵ヲ太原ニ起ス、諸郡ニ克チ、長安
 ニ入ル、時ニ隋ノ大業十二年、帝、江都
 ニアリ、淵、遥ニ尊テ太上皇ト為ス、而
 ノ代王ヲ立ツ、是ヲ恭皇帝ト為ス

煬帝ノ孫元德
太子ノ幼子

恭皇帝名ハ侑、煬帝ノ孫ナリ、年十三ニ

ノ李淵ノ為ニ立テラル、大業十三
 年ヲ改テ義寧元年ト為ス、淵、大丞相
 ト為リ、唐王ニ封セラル、煬帝、江都ニ
 アリ、淫虐日ニ甚シ、酒色口ヲ離レス、
 中原已テニ乱ルヲ見テ、北帰スルニ
 心ナシ、從駕關中ノ人多シ、帰ヲ思テ
 遂ニ謀叛ス、許公宇文化及ヲ以テ主
 ト為ス、夜、兵ヲ引テ宮ニ入り、煬帝ヲ
 縊殺ス、宗室、少長トナク、皆死ス、惟秦
 王浩ヲ存メ、之ヲ立ツ、而ノ自ラ大丞

許公宇文化及
許ハ、國、公ハ、爵、
守文ハ、姓、化及
ハ、名、後周ノ族
ナリ

晉陽官監前禁
ヲ掌トル、晉陽
六縣、太原郡ニ
屬ス、晉陽縣ニ
離宮アリ、或ニ
官監ヲ置クナ
リ、新唐書ニ、淵
太原ニ留守タ
リ、晉陽ノ官監
ヲ領ス、裴府、副
監ト為ル_{主上}
場帝ヲ謂フ

尊父高祖淵
ヲ謂フ

識量人ニ過少、暗室ノ方サニ乱
ルヲ見テ、陰ニ天下ヲ安スル志
ヲ、晉陽ノ官監裴府、晉陽ノ令劉文靜
ト相結ス、文靜、世民ニ謂テ曰ク、今注
上南巡ス、群盜万數、此ノ際ニ當リ、真
主アツテ驅駕ノ之ヲ用ヒ、天下ヲ
取リ、掌ヲ反スカ如キノミ、太原ノ
百姓、收拾セハ十万人ヲ得ヘシ、尊公
ノ將タル所ノ兵、復タ數万、此ヲ以テ
虛ニ乘ソ関ニ入り、天下ニ号令セハ、
半年ヲ過スノ帝業成ラント、世民笑

テ曰ク、君力言正ニ我力意ニ合ヘリ
ト、乃チ陰ニ部署ス、而シテ淵ハ知ラサ
レナリ、淵カ兵突厥ヲ拒テ、利アラズ、
罪ヲ獲ソテ恐ルニ會ス、世民、間ニ乘
ノ淵ニ説ク、民心ニ順テ、義兵ヲ興シ、
禍ヲ轉ノ、福ト為サント、淵、大ニ驚テ
曰ク、汝安ソシ、此言ヲ為スヲ得タル、
吾今汝ヲ執ヘテ、縣官ニ告ント、世民、
徐ニ曰ク、世民、天時人事ヲ觀ルニ、此
ノ如シ、故ニ敢テ言ヲ發ス、必ス執ヘ
告ルモ敢テ辞セスト、淵カ曰ク、吾豈

ニ告ルニ忍シ、汝慎テロヨリ出スナ
カレト、明日、復夕説テ曰ク、人皆傳フ、
李氏當サニ晉識ニ應スヘシト、故ニ
李^キ金^キ才^{サイ}、故ナクノ族滅セラル、大人能
ク賊ヲ盡サハ、則チ功高ノ賞セラレ
ス、身益危カラシ、惟昨日ノ言、以テ禍
ヲ救フ可シ、此万全ノ策、願クハ疑フ
ナカレト、淵、歎ノ曰ク、吾^{ナチ}一夕^{ナチ}汝^{ナチ}力言
ヲ思フニ、亦大ニ理アリ、今日家ヲ破
リ、身ヲセスモ、亦汝^{ナチ}ニ由ラン、家ヲ化
シ國ト為スモ、亦汝^{ナチ}ニ由ラント、是ヨ

〔三郎〕世氏ヲ謂
フ併誅謂ハ、裴寂
私カニ宮人ヲ
ノ淵ニ侍セシ
ムルヲ以テ當
サニ同ク罪ヲ
獲テ誅死セラ
ルヘシ、蓋シ李
淵ヲ恐嚇ス、意
ケラ決メ、事ヲ
スルナリト欲

リ先キ、裴寂、私ニ晉陽ノ宮人ヲ以テ
淵ニ侍セシム、淵、寂ニ從ヒ飲ス、酒酣
ナルトキ、寂力曰ク、二郎、陰ニ士馬ヲ
養ヒ、大事ヲ舉ケント、欲ス、正ニ寂、宮
人ヲ以テ公ニ侍セシム、事、覺セハ、供
セ誅セラレルヲ恐ルカ為メ、此急計ヲ
為スノミト、會煬帝、淵力冠ヲ禦ク能
ハサルヲ以テ、使者ヲノ執テ江都ニ
詣ラシム、世氏、寂等ト復説テ曰ク、事
已テニ迫ル、宜ク早ク計ヲ定ムヘシ、
且ツ晉陽ハ士馬精強ナリ、宮監ノ蓄

代王恭帝初ノ
代王ニ封セラ
ル鼓行ノ擊
テ行ク長懼ナ
キ者ヲ謂フナ
リ撫ノ之ヲ有
セハ云々其ノ
豪傑ヲ撫寧ノ
之ヲ收有ス其
得ヤス物ヲ探
囊中ノ取ルコ
トキヲ取ルコ
ト指シテ野鳥
ヲ指シテ野鳥
為ス鳳凰ノ赤
ノ精鳳凰ノ赤
ナリ通鑑ニ
隋ノ大業十ニ
年ニ孔雀飛
リ西苑ヨリ飛
テ成朝堂ノ飛
前ニ集ル徳儒

積巨万、代王幼冲ナリ、関中ノ豪傑並
ト起ル、公若シ鼓行ノ西シ、撫ノ之ヲ
有セハ、囊中ノ物ヲ探カ如キノミト、
淵、乃チ召募シテ兵ヲ起ス、遠近赴キ
集ル、仍テ使ヲ遣フ、兵ヲ突厥ニ借ル
唐紀ニ、時ニ中国ノ人乱ラ避ル者多
ク突厥ニ入ル、突厥ノ強威、東契丹室
韋ヨリ、西吐谷渾、高昌ノ諸国ヲ盡シ、
皆十之臣タリ、控弦百餘万、唐初ソ
兵ヲ起シ、其紀ス可ラズ、前世民、兵ヲ
後餉遺、勝テ其紀ス可ラズ、前世民、兵ヲ
引テ西河ヲ撃テ之ヲ拔ク、西河郡、山
今ノ郡丞高徳儒ヲ斬ル、之ヲ數テ曰
ク、汝野鳥ヲ指シ、野鳥ト為ス、以テ人主

等、秦ノ以テ
ト為ス、是ニ於
テ、百官ヲ賀ス
徳儒ヲ以テ擢
ト為朝散大夫
ト為河東ヲ夫
田、河東ノ臣
突通ヲ河東ノ
恭帝ヲ立ツ、綱
目ニ突厥曰ク、
荀王唐公自ラ
天子ト為ラハ、
當ニ兵馬ヲ以
テ之ヲ助クハ
シ云々、將佐皆
喜フ、淵、可カ
裴寂等請フ、代
王侑ヲ立テ帝
ト為シ、以テ隋
郡縣ニ安シ、撤

ヲ欺ク、吾義兵ヲ興スハ、正ニ佞人ヲ
誅スル為ノミト、兵ヲ進テ霍邑ヲ
取ル、州ニ屬ス、霍臨汾、絳郡ニ克テ、韓城
ヲ下シ、馮翊ヲ降ス、臨汾、絳郡、平陽ニ屬
州ニ屬ス、淵、兵ヲ留テ河東ヲ圍ム、自
ラ兵ヲ引テ西ス、世子建成ヲノ潼関
ヲ守ラシム、世民、渭北ヲ徇フ、関中ノ
群盜、悉ク淵ニ降ス、諸軍ヲ合セテ、長
安ヲ圍ミ、之ニ克ツ、恭帝ヲ立ツ、淵、大
丞相唐王ト為ル、九錫ヲ加フ、尋テ禪
ヲ受ク、元ヲ武徳ト改ム、子建成ヲ立

後代頭

十八史畧釋卷七

唐高祖

十三

幟ヲ改メ易ヘ
絳白ヲ雜ヘ用
ヒ以テ突厥ニ
示セト、淵曰ク、
此シ耳ヲ掩ラ
鈴ヲ監ムト謂
フ可シ、然レハ
時事ニ過ラハ
ホラサルヲ得
スト、乃チ之ヲ
許ス、留守官都
ニ留リ、固ヲ副
スルヲ主トシ
孫元徳太子ノ
次子

テ、皇太子ト為ス、世民ヲ秦王ト為
ス、元吉ヲ齊王ト為ス、元吉、隋、弟、子、隋、南、有、越、王
ノ東都ノ留守、東都、隋、河、南、有、越、王
何ハ、煬帝ノ孫ナリ、亦衆ノ為ニ立
テラレ、帝ヲ洛陽ニ称ス、○秦主薛舉
卒ス、子仁果立ツ、○魏公李密、密、隋、ノ、兵
ト戦フ、大敗ノ唐ニ降ス、○宇文弼、弼、及
其立ル所ノ主、帝ヲ弑シ、自ラ諸帝ト
称ス、○涼王李軌、帝ト称ス、○唐ノ秦
王世民、秦ヲ破ル、秦主薛仁果降ス、長
安ニ送ラテ市ニ斬ル、右、秦、ノ、薛、舉、隋、ノ
煬、帝、大、業、十、三、年

〔唐人〕行軍總管、
盛彦師

〔將〕安貴興

二、隋ノヨリ、是ニ至テ、○李密、密、唐、ニ、叛
徐世勣、密カ舊境ニ據テ、唐ニ降ス、姓
ヲ李ト賜フ、○竇建德、河北ノ諸州ヲ
取テ、自ラ夏王ト称ス、○李密、唐ニ叛
ク、唐入獲テ、之ヲ斬ル、右、魏、ノ、李、密、隋
ヨリ、隋ノ後、唐ニ降ス、是ニ至
テ、復叛ス、凡テ二年ニシテ、夏、王
主竇建德、宇文化及ヲ破テ、之ヲ誅ス
右許ノ宇文化及、武徳元年ニ、隋、ノ、許、ノ、宇、文、化、及、武、徳、元、年、ニ、許、ノ
ノヨリ、是ニ至ル、二年ニシテ、隋、ノ、主、侗、立、テ、一、年、王、世、充、之、ヲ、廢、シ、自
隋主侗、立テ一年、王世充、之ヲ廢シ、自
立ノ鄭帝ト為ス、尋テ侗ヲ弑ス、○唐
將ヲ遣テ涼主李軌ヲ襲ヒ、執ヘ歸テ

啓 頭

十八史略釋卷六

唐 高祖

十四

二十五騎姓名
未詳

之ヲ殺ス、河西平ク、右涼ノ李軌、隋ノ大業十三年ニ僭
号ヲヨリ、是ニ至ル、○沈法興、梁王ヲ
元ヲヨリ、是ニ至ル、○沈法興、梁王ヲ
此陵ニ稱ス、〔毗陵〕郡ノ名、○李子通、兵
帝ヲ江都ニ稱ス、○杜伏威、唐ニ降ス
○唐ノ秦王世民、定陽ノ將宋金剛ヲ
擊テ、之ヲ破ル、定陽ノ可汗劉武周又
ト金剛、皆走死ス、右定陽ノ劉武周、隋
凡ヲヨリ、是ニ至ル、○唐ノ秦王世民、
諸軍ヲ督メ、鄭ヲ伐ツ、○吳主李子通、
梁ヲ襲フ、梁王沈法興走死ス、右梁ノ
武德二年ニ、僭号メヨ、○夏主竇建德、
リ、凡テ三年ニメヨ、○夏主竇建德、

世民侍ヲ太廟ニ
献スル圖



鄭ヲ救フ、唐ノ秦王世民、大ニ破テ之
ヲ擒ニス、鄭主王世充降ス、世民、長安
ニ至リ、黄金ノ甲ヲ被ル、齊王元吉、李
世勣等ノ二十五將、其後ニ從フ、鉄騎
万匹、甲士三万、侍ヲ太廟ニ獻シ、建德
ヲ市ニ斬ル、世充ヲ救フ、尋テ人ヲノ
潜ニ之ヲ殺サシム、右夏ノ竇建德、隋
僭号メヨリ、是ニ至ル、四年ニメヨ、
○鄭ノ王世充、武德二年ニ、僭号メヨ、
年ニ至ル、三○竇建德力故將、劉黑
闥、始テ兵ヲ漳南ニ起ス、○唐將李靖
ヲ遣シ、梁ヲ伐シム、梁主蕭銑降ス、長

漢東ノ將諸葛
德威行臺尚書
之ヲ行臺ト建
宮ノ行ノ猶ヲ行
シ、皆都臺都省
ニ對ノ之ヲ稱
行臺省ハ、魏晉
ヨリ之ヲ後
魏ニ及テ之ヲ
尚書大行臺ト
謂フ、別ニ官屬
ヲ置ク、之ヲ行
臺省ト謂ク、尚
書令僕射各一
人アリ、蓋シ其
ノ管スル所ノ
道ニ隨テ、外州
ニ置テ、以テ尚
書ノ事ヲ行ハ

安ニ送テ之ヲ斬ル
○大業十三年、江
陵ニ執シヨリ、是
至ル、四年ニシテ
子通ヲ擊テ執ヘテ
伏スニ右、吳ノ李
子通、隋ノ大業十
七年ニシテ、劉黑
闥、自ラ漢王ト稱
楚主、林士弘卒ス、
其衆遂ニ散ス、右
士弘、隋ノ大業十
二年ニ僭号シ、○
漢東ノ將、黑闥ヲ
執ヘテ唐ニ降ス、
之ヲ斬ル、右、漢
東ノ劉黑闥、武德
五年ニシテ、淮南
道ノ行臺僕射輔公
祿、丹陽ニ反ス、
○唐ノ淮南道ノ
行臺僕射輔公祿、
丹陽ニ反ス、唐ノ
輔公祿、江陰屬唐

シム、唐ノ初
亦行臺ヲ置ク
貞觀以後、廢ス
先聖ハ孔子ナ
リ、先師ハ顔回
ナリ、陳、莫ハ、
莫ハ、禮ノ最モ
重キ者ナリ、幣
帛アリ、牲牢ア
リ、合藥アリ、三
獻アルナリ、先
ツ其ノ采帛ヲ
祝置テ、神位ノ
前ニ莫安ス、故
ニ之ヲ祝奠ト
謂フ、又之ヲ合
采ト謂フナリ

將李靖擊ツテ之レヲ斬ル
○慶州ノ
都督楊文幹反ム、
王世民ヲ遣テ討テ之ヲ平ラク、
○突厥、
入テ寇ス、秦王世民ヲ遣テ之ヲ禦
シム、西州ニ遇テ世民、騎ヲ帥テ馳テ
虜陣ニ詣リ、之ニ告テ曰ク、我ハ秦王
ナリト、虜敢テ戰ハス、盟ヲ受テ退ク
○唐、興テ七年、僭偽皆亡、天下既ニ
定ル、是ノ歲、初テ州縣郷ノ學ヲ置ク
帝、親ラ國子學ニ詣テ、先聖先師ヲ釋
奠ス、始テ官制ヲ定ム、新律令ヲ頒ツ

後進 頌 唐 高祖 十六

均田均ク天下
 人ニ田ヲ給ス
 ルナリ租ハ田
 賦備ハ口賦調
 八戸賦丁中民
 丁ハ當ナリ強
 壯時ニ當ル中
 ハ上下通スル
 項凡ソ天下田
 五尺ヲ歩ト為
 ス、二百四十步
 一畝ト為ス、百
 畝ヲ項ト為ス、
 十、六、七、八、
 四、十畝、七、
 十畝、十、二、
 世業、世々其業
 ヲ守ル一永業
 曰ス凡ソ田分
 テ二等ト為ス、
 世業ト曰ス、一、
 八、口

「始テ官制ヲ定ム」大總官ヲ改テ、大都
 督府ト為シ、次ニ大尉、司徒、司空ヲ以テ、三
 公ト為シ、次ニ尚書、門下、中書、秘書、殿
 中、内侍ヲ六省ト為ス、次ニ至ルマテ、九寺ト
 為ス、太常、ヨリ大府ニ至ル子學、次ニ天
 策、至上、將、府、次ニ作監、次ニ國子、左、右、領、衛
 二、至、上、將、府、次ニ衛、東宮、三、師、三、少、衛
 營、事、及、七、西、坊、三、寺、十、率、府、三、置、師、三、少、衛
 公、ハ、府、佐、國、官、ヲ、置、ク、公、主、ハ、邑、置、ク、王
 置、ク、外、職、事、官、ト、為、ス、開、府、儀、同、三、司、鎮、戍
 ハ、外、職、事、官、ト、為、ス、開、府、儀、同、三、司、鎮、戍
 リ、將、仕、郎、ニ、至、ル、將、軍、ヨ、リ、散、官、信、義、副、尉
 官、ト、柱、國、ヨ、リ、武、騎、尉、ニ、至、ル、散、官、信、義、副、尉
 上、柱、國、ヨ、リ、武、騎、尉、ニ、至、ル、散、官、信、義、副、尉
 官、ト、均、田、租、備、調、ノ、法、ヲ、定、ム、丁、中、ノ
 為、ス、均、田、一、頃、ヲ、給、ス、蕩、疾、ハ、十、ノ、六、ヲ
 民、ニ、田、一、頃、ヲ、給、ス、蕩、疾、ハ、十、ノ、六、ヲ
 減、ス、寡、妻、妾、ハ、七、ヲ、減、ス、皆、十、ノ、二、ヲ

分ト曰フ、家
 レハ、則世業
 リ、口アレハ、口
 分アルナリ、丁
 中、田、二十畝ヲ
 世業田ト為ス、
 八十畝ヲ、口分
 田ト為ス、ナリ、
 蕩疾及ヒ寡妻
 妾、皆二十畝ヲ
 以テ世業ト為
 ス、其餘ヲ口分
 ト為ス、(調)其宜
 キ可隨フヲ、調
 ト為ス、(三尺)每
 日其備帛三尺
 宜キ所ニ隨フ、
 其調ヲ免ス、或
 ハ、官中事アツ
 テ、役ヲ加ル者、
 五日至ル者、八、

以テ世業ト為ス、八ヲ口分ト為ス、丁
 コトニ歳ニ租粟二石ヲ入ル、調ハ土
 地ノ宜シキ所口ニ隨カフ、
 歲役ニ旬、役セサレハ、則チ其備ヲ收
 ム、日ニ三尺、事アツテ役ヲ加ル者、
 旬又五日ニソ、其調ヲ免ス、
 ハ、租調俱ニ免ス、水旱蟲霜ニハ、十ニ
 ノ四以上ヲ損スレハ、租ヲ免ス、六以
 上ヲ損スレハ、調ヲ免ス、七以上ヲ損
 スレハ、課役俱ニ免ス、民ノ贖業九等
 ニ分ツ、百戸ヲ里ト為ス、五里ヲ郷ト

後
 唐
 高祖
 十七

則其調ヲ收
ルヲ免ス課役ハ
俱ニ免ス課ハ
備帝トヲ謂フ
允等上上上中
中下中上中中
下下上凡ソ
文武ヲ習學ス
ル者ヲ士ト為
ス黃釋幼髮黃
細弱ヲナリ
リ中丁前ニ見
ニ甲子一周
シ血氣已テ
衰故ニ之ヲ
免放スナリ
儲嗣太子ヲ儲
天ニ經ル太白
ハ金宿陰星ナ

為ス、四家ヲ、鄰ト為ス、四鄰ヲ、保ト為
ス、城邑ニ在ル者ヲ、坊ト為ス、田野ハ
村ト為ス、祿ヲ食ムノ家ハ、民ト利ヲ
爭ヲ得ルナシ、工商雜類ハ、士伍ニ預
ルナシ、男女始テ生ル、ヲ、黃ト為ス、
四歳ヲ、小ト為ス、十六ヲ、中ト為ス、二
十ヲ、丁ト為ス、六十ヲ、老ト為ス、歳コ
トニ計帳ヲ造ル、三歳戶籍ヲ造ル○
初ノ唐ノ晉陽ヨリ起ル、皆世民ノ謀
ナリ、帝、世民ヲ以テ、儲嗣ト為ント欲
ス、世民、固辞ソ止ム、太子建成、酒色遊

リ、東ニ出レハ、
當ニ西ニ出レハ、
ハ、當ニ西ニ出レハ、
スヘシ、午ヲ過
ルヲ經テ、午上
ス、謂ハ、晝、午上
ニ見ハルナリ、
秦介未ニ屬ス、
蓋シ午ニ見ハ
ルハ、未ニ被ル
ナリ、寮屬王府
ノ官屬周公ノ
事兄ノ管仲ヲ
誅ス、兄弟ハ、
建成、弟ハ、元吉
ノ世充、建德カ
ノ云々、世民カ
ノ弟ニ於テ、絲
毫ノ之ニ負ク
ナシ、而シテ兄
弟ノ殺サント

政ヲ喜ム、齊王元吉、過失多シ、而ノ世
民カ功名日ニ盛ナリ、建成、乃チ元吉
ト謀ヲ協セ、世民ヲ傾ケントス、意ヲ
曲テ、諸妃嬪ニ諂ヒ事フ、世民、獨之ヲ
事トセス、是ニ由テ、左右皆建成元吉
ヲ譽テ、世民ヲ短ル○武德九年、六月、
太白天ニ經ル、秦ノ介ニ見ハル、建成、
元吉、世民ヲ殺サント欲ス、秦府ノ寮
屬、王ニ勸テ周公ノ事ヲ行ハシム、カ
請テ乃チ決ス、是ニ於テ、密ニ秦ス、兄
弟鬪ラ臣ヲ殺サント欲ス、世充建德

龍頭 十八史 唐 高祖 十八

似警建欲
夕德ス、故ニ世充
リ報ノ為ソニ
トスルソニ
曰ルニ
フニ

ノ為メニ警ヲ報スルニ似タリト、明日、兵ヲ帥テ玄武門ニ伏ス、建成、元吉入ル、變アルヲ覺テ還ラント欲ス、世民、追テ建成ヲ射テ之ヲ殺ス、尉遲敬德、元吉ヲ射殺ス、尉遲敬德名遂ニ世民ヲ立テ、太子ト為ス、軍國ノ事、悉ク太子ニ委メ、處決セシム、然ソ後ニ奏ヲ開ク、初ノ東宮ノ官屬魏徵、慶建成ヲ勸メテ、世民ヲ徐セントス、是ニ及テ、世民、徵ヲ召シ、責ルニ兄弟ヲ離間スルヲ以テス、徵、舉止自若タリ、對テ屈

世民兵ヲ玄武門ニ伏ス圖



セス、世民、之ヲ礼ス、王珪モ亦嘗テ建成力為ソニ謀ル、皆以テ諫議大夫ト為ス、帝、自ら稱メ太上皇帝ト為ル、詔メ位ヲ太子ニ傳フ、是ヲ太宗文武皇帝ト為ス
太宗文武皇帝名ハ世民、幼カリシ日、書生アリ、之ヲ見テ曰ク、龍鳳ノ姿、天日ノ表、其年、冠スルニ幾フソ、必ス能ク世ヲ濟ヒ、民ヲ安セント、書生去ル、高祖、入ヲソ之ヲ追ハシム、見ヘス、乃チ其語ヲ採テ、名ト為ス、年十八ニシテ義

府ヲ開テ屬ヲ
置ク天策府ヲ
開テ官屬ヲ置

兵ヲ擧ク、李密、唐ニ降り、初メテ高祖
ヲ見ル色尚ヲ傲レリ、秦王ヲ見ルニ
及テ、敢テ仰キ視ス、退テ歎ク曰ク、真
ノ英主ナリト、高祖、秦王ノ功高キヲ
以テ、特ニ天策上將ヲ置ク位、王公ノ
上ニ在リ、秦王ヲ以テ之ヲ為ス、府ヲ
開テ、屬ヲ置ク、館ヲ開テ、以テ文學ノ
士ヲ延ク、杜如晦、房玄齡、虞世南、褚亮、
姚志、蘇李玄道、蔡允恭、薛元敬、顏相時、
蘇勗、于志寧、蘇世長、薛收、李守素、陸徳
明、孔穎達、蓋文達、許敬宗、文學館ノ學

三番番ハ、通
リ毎ニ六人ヲ
以テ直ス、像
ノ入テ直ス、
國ノ形像ヲ十
人ノ形像ヲ同
像ス、美ヲ贊ト
シ、美ヲ贊ト
日ノ美ヲ贊ト
來相傳フ、海
ニ三神山アリ
人至ル能ハス
至レハ則チ仙
ト成ル、瀛州
ハ其ノ一ナリ、
ヘテ取テ以テ
其選ヲ預ルノ
業ヲ言フナリ
ノ府僚天策府
ノ府僚外ニ補
セラレ外ニ職
事官ニ補ス

士ト為ス、今テ三番ト為ス、日ヲ更テ
直宿ス、王、暇日ニハ輒チ館中ニ至テ
文籍ヲ討論ス、或ハ夜今ニ至ル、閣立
本ヲノ像ヲ置セシム、褚亮、贊ヲ為ク
ル、十八學士ト号ス、士大夫ノ其選ニ
預ルヲ得ル者ヲハ、時人之ヲ登瀛州
ト謂フ時ニ府僚多ク外ニ補セラレ、如
晦モ亦出ツ、玄齡カ曰ク、餘人ハ惜ニ
足ラス、如晦ハ王佐ノ才ナリ、大王、四
方ヲ經營セント欲セハ、如晦ニ非レ
ハ不可ナリト、王、即チ奏ソ之ヲ留ム、

奏事ヲ入ルテ奏
王ノ軍符表奏
毎ニ玄齡ヲノ
之ヲ草シシム
ルナリ、奏事ヲ
入ルハ、奏事ノ
書ヲ入レ上ツ
ルヲ謂フ、玄齡
自ラ朝ニ入テ
非ラ奏スルニ

惟慳ニ參謀タラシム、割決カ流ル、カ
如シ、玄齡、奏事ヲ入ルコトニ高祖歎
ノ曰ク、玄齡、吾カ見ノ為ノ事ヲ陳
ル、千里ヲ隔ト雖モ、面ニ對シ語ルカ
如シト、秦王、功カ天下ヲ蓋フ、身カシト
危シ、玄齡、如晦ニ賴テ、策ヲ決シ、是ニ
至テ、位ニ即ク、首トメ、宮女三千餘人
ヲ放ツ。○突厥、頡利突利ノ二可汗、十
餘万騎ヲ合セテ入寇ス、進テ渭水カ便
橋ノ北ニ至ル、上、自ラ房玄齡等六騎
ト徑ニ渭水ノ上ニ詣テ、頡利ト水ヲ

〔四部〕經書、史書
子書、文集、

〔權〕舉ナリ、較ナ

隔テ、語ル、責ルニ約ニ彫ヲ以テ、
突厥、大ニ驚ク、皆馬ヨリ下テ羅拜ス、
俄ニノ諸軍繼テ至ル、旗甲野ヲ蔽フ、
頡利、懼テ盟ヲ請テ退ク。○弘文館ヲ
置ク、四部ノ書、二十餘万卷ヲ聚ム、天
下文學ノ士ヲ選ム、虞世南等、本官ヲ
以テ學士ヲ兼ヌ、朝ヲ聴クノ際、内殿
ニ引キ入レ、前言往行ヲ講論シ、政事
ヲ商榷ス、或ハ夜分ニノ乃チ罷ム、三
品以上ノ子孫ヲ取テ、弘文館ノ學士
ニ充テリ。○上書ノ倭臣ヲ去ント請

フ者アリ、曰ク、願クハ陽怒テ以テ之
 フ試シ、理ヲ執テ屈セサル者ハ、直臣
 ナリ、威ヲ畏テ旨ニ順フ者ハ、佞臣ナ
 リト、上ノ曰ク、吾能ラ詐ヲ為サハ、何
 フ以テカ臣下ノ直ヲ責ンヤ、朕好ニ
 至誠ヲ以テ天下ヲ治ント、或人法ヲ
 重クノ盗ヲ禁セント請ス、上ノ曰ク、
 當サニ奢ヲ去テ、費ヲ省キ、徭ヲ輕フ
 シ、賦ヲ薄フシ、庶吏ヲ選用シ、民ノ衣
 食ヲノ餘アラシムハ、射ラ盗ヲ為サ
 シ安シクシ、重法ヲ用ヒンヤト、是ヨリ

〔斃〕死ナリ

〔胡〕胡商

〔諸〕アリヤ知ラ
ス果ノ此事アリ
リヤ否ヤ

〔賊〕賊ナリ

数年ノ後、路遺ヲ拾ハス、商旅野宿ス、
 上、嘗テ曰ク、君ハ國ニ依リ、國ハ民ニ
 依ル、民ヲ刻ノ以テ君ニ奉セハ、猶ヲ
 肉ヲ割テ以テ腹ヲ充ルカコトシ、腹
 飽トモ身斃ル、君富トモ國亡ント、又
 嘗テ侍臣ニ謂テ曰ク、聞ク西域ノ胡
 賈ハ、美珠ヲ得レハ、身ヲ割テ之ヲ藏
 ムト、諸アリヤト、曰ク、之アリ、曰ク、吏
 ノ賊ヲ受テ、法ニ抵ルト、帝王ノ奢欲
 ニ拘テ、國ヲ亡ス者トハ、何ヲ以テカ
 此胡ノ笑ヲ可キニ異ナランヤト、魏

〔雅樂〕上皇、孝孫、
命、孝孫、以為、
久、梁、陳、多、
吳、楚、多、胡、
ノ音、ハ、胡、
シト、是、胡、
古、色、ハ、考、
ノ雅、樂、ヲ、
凡、八、十、四、
十、一、曲、十、
是、ニ、至、テ、
奏、マ、〔故、
々、言、ハ、中、
人、參、決、メ、
取、テ、各、所、
執、リ、其、判、
録、ス、ナ、リ、
署、ス、ナ、リ、
縣、ニ、朝、至、
ル、ヨ、リ、マ、
テ、郡、ヲ、

其地ヲ以テ、夏州ト為ス〔夏州〕甘肅ニ
方〇右梁ノ梁師都、隋ノ恭帝、義寧元
年ニ僭号シ、是ニ至ル、凡テ十二
年ニシテ、〇太常、祖、孝孫、唐ノ雅樂ヲ奏
ス〔祖〕姓名〇故事ニ、軍國ノ大事ハ、中
書舍人各所見ヲ執テ、其名ヲ雜署ス、
之ヲ五花判事ト謂フ、中書侍郎、中書
令、之ヲ省審ス、給事中、黃門侍郎、之ヲ
較正ス、上、黃門侍郎、王珪ニ謂テ曰ク、
國家本ト中書ト門下トヲ置キ、以テ
相檢察ス、卿力曹雷同スル勿レナリ
ト、時ニ珪、侍中タリ〔中書門下〕ニ首ハ、

決事皆判詞曰
フ五花判事蓋
綾紋ノ謂ス五
雲綾ノ類、中書
舍人ノ判、必ス
此綾ノ常時之書
故ニ花判事ト謂
五〔雷〕同附和ノ
義、ナ、雷、百里
ヲ震、驚、而、
百里一、同、
ニ事、可、否、
ル、之、ヲ、同、
ト者、之、ヲ、
同ト謂フ、
雷

詔令ハ出ス、門下省ハ、之ヲ審駁ス、
令選ス、差失ア、
奏志ニ、中書省、
官ヲ佐ケ、太政
子事ヲ總テ、中
省ノ職ヲ、
令參議ス、
參議ノ職ヲ、
奏ニ侍中、
凡ソ下省ノ制、
門下省ノ制、
判、ス、黃、侍、
貳、フ、掌、
上、左、右、
分、千、判、
晦、僕、射、
左、右、僕、射、
ス、ハ、則、
ニ、目、テ、
詔令ハ出ス、門下省ハ、之ヲ審駁ス、
令選ス、差失ア、
奏志ニ、中書省、
官ヲ佐ケ、太政
子事ヲ總テ、中
省ノ職ヲ、
令參議ス、
參議ノ職ヲ、
奏ニ侍中、
凡ソ下省ノ制、
門下省ノ制、
判、ス、黃、侍、
貳、フ、掌、
上、左、右、
分、千、判、
晦、僕、射、
左、右、僕、射、
ス、ハ、則、
ニ、目、テ、

史略

史略詩餘考

唐太宗

廿四

秘書監ニ守タ
 之真ノ秘書監
 ト為ルニ非ル
 ナリ、其位卑ソ
 授ニ官ノ高キ
 フ以テスル之
 フ守ト謂ス通
 典ニ凡ソ心官
 皆行守ト称ス
 其階高ノ官
 ノ卑キ者ハ行
 ト称ス、官高キ
 者ハ守ト称ス、
 官階同キ者ハ
 竝ニ行守ノ字
 ナリ、唐六典ニ
 秘書監一人、從
 三品、禁中ノ
 書秘記ヲ掌ト

ヲ以テ、共モニ國政ヲ譏セシム此レ
 宰相ノ職ナリ、其後太宗嘗テ尚書令
 タルヲ以テ、臣下避テ敢テ其職ニ居
 ラス、是ヨリ、僕射、尚書省ノ長官ト為
 ル、侍中、中書令ト魏徵、秘書監ニ守
 号ノ宰相ト為スト、玄齡、事ヲ謀ニ必
 リ、朝政ニ參預ス、玄齡、事ヲ謀ニ必
 曰ク、如晦ニ非シハ、決スル能ハスト、
 如晦、至ルニ及テ、卒ニ玄齡カ策ヲ用
 ニ、蓋シ玄齡ハ善ク謀ル、如晦ハ善ク
 断ス、二人心ヲ同メ國ニ徇フ、故ニ唐
 ノ世、賢相ヲ称スルハ房杜ヲ推ス、徵
 嘗テ上ニ告テ曰ク、願クハ臣ヲノ良
 臣タラシメヨ、臣オメ忠臣タラシム

〔教勅〕其先匈奴
 薛延陀、回紇、以
 下十五部、總テ
 教勅ト謂フ、干
 五部、薛延陀、回
 紇、都播、骨利幹、
 多濫葛、同羅、僕
 固、拔野古、思結、
 渾、斛薛、奚、結、阿
 跌、契苾、白、靺、
 目、契、見、二、積、
 碯

ル勿レト、上ノ曰ク、忠良異リヤ、徵曰
 久、稷、契、皋陶、君臣心ヲ協セテ俱ニ尊
 榮ヲ享ク、謂ユル良臣ハ龍逢、比干、百
 折廷諍ス、身誅セラレテ國亡フ、謂ユ
 ル忠臣ナリト、上悦フ○初メ突厥、既
 ニ強シ、勅勅カ諸部分散ス、薛延陀、回
 紇等ノ十五部アリ、皆磧北ニ居ル、頡
 利政乱ル、薛延陀、回紇等、之ニ叛ク、加
 ルニ民ノ大ニ飢ヘ、羊馬多ク死スル
 ヲ以テス、奉使ノ者還リ及ヒ、邊帥皆
 突厥取ル可キノ状ヲ言ス、詔メ李靖

李靖突厥ヲ降山ニ襲ヒ破ル圖



ヲ以テ定襄道ノ行軍總管ト為ス、諸
 軍ヲ統テ之ヲ討ス、靖、突厥ヲ陰山ニ
 襲ヒ破ル〔陰山〕開平ノ北ニアリ、東西
 千餘里、草木茂盛、禽獸多シ、
 匈奴共中ニ依阻ス、漢武、匈奴ニ克チ、
 陰山ヲ置ク、東漢、省ノ五原ニ入ル、唐、
 ノ天山ニ復ス、陰山ノ南、唐ノ
 將、之ヲ擒ニソ以テ獻ス、時ニ突利可
 汗、先ニ已テ入朝ス、上、突厥力降衆
 ヲ處ク、東ノ方幽州ヨリ、西靈州ニ至
 ル〔靈州〕甘肅ニ屬、突利力地ヲ分テ四
 州ト為ス、今ノ朔方軍、突利力地ヲ分テ四
 州ト為ス、頡利力地ヲ分テ六州ト為
 ス、左ニハ定襄都督ヲ置ク、右ニハ雲

〔西州〕名号未タ詳ナラス
〔六州〕名号未タ詳ナラス

中都督ヲ置ク、以テ其衆ヲ統テ、突利
 ヲ以テ順州都督ト為ス〔順州〕北平頡
 利ヲ右衛大將軍ト為ス、○林邑、使ヲ
 遣シ入貢ス、○伊吾來降ス、伊西ノ州
 ヲ置ク〔伊州〕伊吾郡〔西州〕高昌王麴
 文泰、入朝ス、○高昌王麴
 キ、四夷ノ君長、闕ニ詣リ、帝ヲ天可汗
 ト為シ、ト請フ、上ノ曰ク、我大唐ノ天
 子タリ、又下モ可汗ノ事ヲ行フヤト、
 群臣及ヒ四夷皆万歳ト称ス、是ヨリ
 後、玺書ノ西北ノ君長ニ賜フニ、皆天

〔年アリ〕捨ラ大
有ト曰フ

可汗ト称ス○貞觀四年、蔡公如晦卒
ス、上、語及ヘハ必ス涕ヲ流ス〔蔡〕國○
是ノ歳、大ニ年アリ、上ノ初ノ位ニ即
クヤ、常テ群臣ト語テ、教化ニ及ス、曰
ク、大乱ノ後、其治リ難キカト、魏徵、對
テ曰ク、饑レ者ハ食ヲ為シ易ク、渴ス
レ者ハ飲ヲ為シ易シト、封徳彝カ曰
ク、三代ヨリ以還、人漸ク澆化、故ニ秦
ハ法律ニ任シ、漢ハ霸道ヲ雜ニ、蓋シ
化セシト欲スレバ能ハス、豈ニ之ヲ
能ストモ、而ソ欲セサラシヤト、徵カ

〔斗米〕唐ノ一斗
ハ、蓋シ今ノ三
斗許〔匹〕四丈ヲ
四ト為ス〔三〕四
錢武徳四年ニ
鑄ル所ノ錢、即
ナ開元通宝ナ
リ、十錢ト空ナ
重サ一兩ニ

〔五嶺〕前ノ隋ノ
煬帝ノ下ニ見
ユ

曰ク、五帝三王、民ヲ易ヘスノ化ス、湯
武、皆大乱ノ後ニ乗シ、躬太平ヲ致ス、
帝道ヲ行テ帝タリ、王道ヲ行テ王タ
リ、行フ所ハ何如ント願ルノミト、上、
弊ニ徴カ言ニ從フ、元年、関中饑ニ、斗
米絹一匹ニ直ル、二年、天下饑アリ、三
年、大水アリ、上、勤テ之ヲ撫ス、未タ嘗
テ嗟怒セス、是ニ至テ、天下大ニ捨ス、
米斗ヲ三四錢、終歳死刑ヲ断スル、纒
ニ二十九人、東ノ方海ニ至リ、南ノ方
五嶺ニ及マテ、皆外戸閉ス、行旅糧ヲ

越騎其勁勇能
言超越スルヲ
命シ、折衝都尉
ト爲シ、別將ヲ
果毅都尉ト爲
ス、〔季冬〕十
直ヲ与ヘ、自
直ヲ与ヘ、自
馬ヲ買ハシム
〔番上〕更番ノ
衛ス、〔番上〕
遠近ニ隨テ以
テ番上ノ制ヲ
定ム
〔十條〕大畧一
言久使ヲ遣シ
徵求ス、ニ言
ク奢肆人カニ
用ヲ思フ、三
言ク、欲ヲ三
ニニ

尉アリ五十人ヲ、隊ト爲ス、隊ニ正アリ、十人ヲ、火ト爲ス、火ニ長アリ、入コトニ兵甲粮装各數アリ、之ヲ庫ニ輸ス、征行ニハ、之ヲ給ス、二十ニノ兵ト爲ル、六十ニノ免ス、能ク騎射スル者ヲ、越騎ト爲ス、其餘ヲ歩兵ト爲ス、統軍別將ヲ更命シ、折衝果毅都尉ト爲ス、每歲季冬、折衝都尉帥テ以テ戰ヲ教ニ、當サニ馬ヲ給スヘキ者ニハ、官ヨリ直ヲ與フ、當サニ宿直スヘキ者ニハ、番上ス、兵部遠近ヲ以テ、番ヲ給

シ人ヲ勞ス、四
ニ言ク、小子
昵シ、君子ヲ
ス、五ニ言ク、
物ヲ貴ク、無
ヲ作ル、六ニ
久ク輕ク賢ヲ
クス、而易ク
ク、〔葉〕七ニ
ニ言ク、〔田〕八
フ、〔泰〕九ニ
接セ、〔ス〕十
ク、〔傲〕十一
ク、〔ノ〕十二
ノ、〔氏〕十三
ス、〔以〕十四
貞觀ノ初ニ如
カス、〔國〕十五
チ大、〔學〕十六

ス、遠ハ疎ニ、近ハ數ナリ、皆一月ニシテ更ル。○十三年、夏、旱ス、五品以上ニ詔ノ、事ヲ言ハシム、魏徵言ク、陛下、貞觀ノ初ニ比スルニ、漸ク終ヲ能クセサル者、十條ト上、深ク獎歎ス。○十四年、上、國子監ニ詣リ、親テ擇奠ス、是ノ時大ニ天下ノ名儒ヲ徵テ、學官ト爲ス。數國子監ニ幸シ、之ヲノ講論セシム、學生、能ク一經以上ニ明ナル者、皆官ニ補スルヲ得タリ、學舍ヲ増築スルニ、補スルヲ得タリ、學舍ヲ増築スルニ、千二百間、學生ヲ増メ、二千二百六十

屯衛飛騎左右親軍便官全書ノ註ニ唐ノ善行本屯衛將軍ニ作ル、飛騎ヲ典トシ、飛騎確、字ハ行本、太宗ノ時ハ孔穎達、字ハ仲達、衡水ノ人、顏師古、司馬才章、王瑛ト詔ヲ受ケ、五經ノ義訓ヲ撰ス、凡ソ百餘篇、義贊ト号ス、詔ノ改ノ正義ト為ス、詳ニ唐儒林傳ニ見ユ

負ニ滿ソ、屯營飛騎ヨリ亦博士ヲ給シ、經ヲ授ク、能ク經ニ通スル者アルハ、貢舉ヲ得テ聽ス、是ニ於テ、四方ノ學者、京師ニ雲集ス、乃チ高麗、百濟、新羅、高昌、吐蕃、諸酋長ニ至ルマテ、亦子弟ヲ遣テ、請テ國學ニ入ル百濟國東夷、講筵ニ升ル者八千餘人ニ至ル上、師說ノ多門ニシテ、章句繁雜ナルヲ以テ、孔穎達ニ命テ、諸儒ト五經ノ疏ヲ定メシム、之ヲ正義ト謂フ、高昌王麴文泰、是ヨリ先キ、多ク西域ノ朝貢

〔晉〕齊ナリ、滅ナ

ヲ過絶シ、及ヒ中國ノ人ヲ拘留ス、疾君集ヲ以テ交河ノ大總管ト為シ、兵ニ將トシ、之ヲ擊ツ、是ニ至テ、高昌ヲ滅ス、其地ヲ以テ西州ト為ス〔交河〕高昌ノ都、所ル〇十五年、吐蕃、婚ヲ求ム、文成公主ヲ以テ之ニ嫁ス、〇十七年、鄭公魏徵卒ス〔鄭〕國上ノ曰ク、銅ヲ以テ鏡ト為スハ、夜冠ヲ正ス可シ、古ヲ以テ鏡ト為スハ、興替ヲ見ル可シ、人ヲ以テ鏡ト為スハ、得失ヲ知ル可シ、徵没ソ、朕一鏡ヲ亡フ、徵、葬ルトキ、上、自ラ碑

功臣凌煙閣ニ
画ク圖



製石ニ書ス○功臣長孫無忌趙
 郡王李孝恭杜如晦魏徵房玄齡高士廉
 尉遲敬德李靖蕭瑀段志玄劉弘基屈
 突通殷開山柴紹長孫順德張亮侯君
 集張公謹程和節虞世南劉政會唐儉
 李勣秦州寶等ヲ凌煙閣ニ圖畫ス〔萃
 太宗ノ再○太子承乾不才ナリ魏王
 泰多能ニノ寵アリ〔泰太宗ノ潜ニ嫡
 ヲ奪フノ志アリ侯君集功ヲ負テ怨
 望ス承乾暗劣ヲ以テ讒ニ乗セント
 欲ス曰テ之ニ及ヲ勸ム事覺ル察

石ニ書ス功臣名
 父ノ功ヲ追述
 スルヲ碑ト曰
 〔怨望〕通鑑ニ疾
 君集ノ高昌ヲ
 破ルヤ私ニ其
 珍寶ヲ取テ有
 司ノ為ノ詔ノ勅
 セラルル詔ノ君
 集ヲ獄ニ下ス
 後中書侍郎岑
 文本カ上疏ヲ
 以テ免ヲ得ク
 リ詳ニ貞觀十
 四年ニ見ニ起
 居郎國史院ノ
 官六典ニ曰ク
 起居郎天子ノ
 動作法度ヲ録

庶人ト為ス君集坐ノ誅セラル泰モ
 亦險詐ヲ以テ立夕ス晋王治ヲ以テ
 太子ト為ス〔治太宗ノ魏徵嘗テ君集
 フ薦ム上始テ徵ヲ阿黨スルヲ疑ス
 又徵自ラ前後ノ諫辭ヲ録シ起居郎
 褚遂良ニ示スト言フ者アリ上愈悅
 ヒス徵終ニ臨ム上公主ヲ面指ノ其
 子姪玉ニ妻ント欲ス是ニ至テ其婚
 フ停ム立ツ所ノ碑ヲ踏ス○十八年
 上親ラ高麗ヲ征ス是ヨリ先キ高麗
 ノ泉蓋瓊文高麗東部ノ大人或ハ名

唐太宗

三三

シ、以テ事ヲ修
記スルヲ掌ト

ナリト、未ク是
其君ヲ弑ス、新羅又使
ヲ遣シ言ク、百濟、高麗ト兵ヲ連テ新
羅入貢ノ路ヲ絶テ謀ルト、兵ヲ乞フ
救援シム、上、遂ニ之ヲ討ス、先ツ洛陽
ニ行ク、十九年、上、洛陽ヲ發シ、定州
ニ至ル、〔定州〕河北ニ屬諸軍ヲ進ム、上、
濟水ヲ渡リ、遼東城ヲ拔ク、白巖城ヲ
降ス、安市城ヲ攻ム、大ニ其救兵ヲ城
下ニ破ル、安市、城險ニシテ兵精シ、堅ク
守テ下ラス、議者烏骨城ヲ拔キ、鴨綠
水ヲ渡リ、直ニ平壤ヲ取ント欲ス、〔烏骨〕

師ヲ班ス、師ヲ
還ス、班ト曰
〔十城〕玄菟、橫山、
蓋牟、磨米、遼東、
白巖、卑沙、麥谷、
銀山、後黃

戸已通盤ニ蓋
遼岩ノ三州ヲ
徙ス、戸口中國
ニ入ル者七万人

城〕已上ノ數城、立ニ東夷ニ在リ、鴨綠
水〕高麗ノ東北ニ出テ、西ノ海ニ入ル
〔平壤〕城、東北ニアリ、其根本ヲ覆サハ
高麗ノ都ニシテ所口、
則チ餘ハ戰ハスノ降ス可シト、或人
又謂フ、親征ハ諸將ニ異ナリ、危ニ乘
ス可ラスト、上、遼左早寒ニシテ草枯レ
水凍テ、士馬久ク留メ難ク、且ツ糧ノ
將サニ盡シトスルヲ以テ、救フ師ヲ
班ス、是ノ行、十城ヲ拔ク、戸口七万ヲ
徙ス、三夕ヒ大ニ戰フ、斬首四万余級、
然レテ戰士ノ死スル者幾ト三千人、
戰馬ノ死スル者七八、功ヲ成ス能

竊頭

十八史略釋卷七

唐太宗

三

〔少牢〕豕ナリ
〔十一姓〕回紇、拔野古、同羅、僕骨、多濫葛、思結、阿跌、契苾、跌結、渾、斛薛

〔唐畧〕古ハ將ヲ遣ル、必ス唐堂ノ上ニ於テ先ツ制勝ノ策ヲ先定ム、之ヲ唐畧ト謂フ、又之ヲ唐畧ト謂フ

ハス、深ク之ヲ悔ニ、歎ク曰ク、魏徵、若シ在ラハ、我ヲノ此行アラシメサルナリト、命メ、驛ヲ馳テ、徵ヲ祠レニ、少牢ヲ以テシ、復タ製スル所ノ碑ヲ立ツ。○二十年、上、靈州ニ如ク、李世勣ヲノ薛延陀ヲ撃タシム、破テ之ヲ降シ、敕勅ノ諸部ヲ招諭ス、回紇等ノ十一姓、各使ヲ遣シ、命ニ歸ス、官司ヲ置シ、ヲ乞フ、詔メ曰ク、朕聊カ偏師ニ命シ、頭勅ヲ逐擒ス、始テ唐畧ヲ弘ム、已テニ延陀ヲ滅ス、勅勅百餘万户請テ、州

〔混元〕太古ナリ
〔千古〕二報ニ昔
大王岐山ノ辻、高帝平城ノ田、皆夷狄ノ耻ナリ、得テ之ヲ臣トス、猶ラ前王ニト申報スルカコト

郡ト為シ、混元ヨリ以降、殊ニ未タ前聞セサルハ、宜ク礼ヲ備テ廟ニ告クヘシト、仍テ天下ニ頒示ス、上、詩ヲ為テ曰ク、雪耻ヲ酬ニ百王、除兇ヲ報ニ千古、石ニ靈州ニ刻ム。○十二年、司空梁公房玄齡卒ス。司空官置上、悲テ自ラ勝ヘス、玄齡、上ヲ佐テ天下ヲ定ム、相ノ位ヲ終レニ及ブマテ、三十二年、号メ賢相ト為ス、然レテ迹ノ尋ヌ可キナシ、德亦至レリ、上、禍乱ヲ定ム、而メ房杜功ヲ言ハス、王魏善ク諫諍ス、而メ房

龍頭

十八史畧釋卷六

唐太宗

孟

〔英衛〕美公李勣、衛公李靖

〔徘徊〕進マサル
負、成、垂、沉、滯ノ
意

杜其賢ヲ讓ル、英衛善ク兵ニ將タリ、
而ノ房杜其道ヲ行フ、理、太平ヲ致シ、
善、人主ニ帰ス、唐ノ宗臣タリ○二十
三年上、疾アリ、太子ニ謂テ曰ク、李世
勣、才知餘アリ、然ルニ汝^李之ト思ナシ、
恐クハ懷服スル能ハス、我^李今之レヲ
黜^シケン、若シ其行ケハ、我カ死ヲ俟^テ、
汝^李用テ僕射ト為メ、之ヲ親任セヨ、若
シ徘徊顧望セハ、則チ當サニ之ヲ殺
スヘギノミト、乃チ疊州^多ノ都督ニ左
遷ス、諸ヲ受テ家ニ至ラスノ去ル^{〔疊州〕}

〔貞觀〕即位ノ二
年、丁、未ニ改元
ス

〔魯〕自媒ヲ、魯ト
曰フ、

羣昌ニ ○上崩ス、在位ニ十四年、改元
屬スル者一ツ、曰ク、貞觀上、武功ヲ以テ
禍乱ヲ定ムト雖、文徳ヲ以テ海内
ヲ綏^スシ、常ニ自ラ驕侈ヲ以テ懼ト
為ス、嘗テ曰ク、人主ハ惟一心アツテ、
而ノ之ヲ攻ル甚ク衆シ、或ハ勇ヲ以
テシ、或ハ辨口ヲ以テシ、或ハ諂諛ヲ
以テシ、或ハ姦詐ヲ以テシ、或ハ嗜欲
ヲ以テス、輻湊ノ之ヲ攻メ、各自^自ラ售^ケ
以テ寵祿ヲ求ム、人主少ク懈テ而メ
其一ヲ受レハ、則チ危亡之ニ隨ハシ、

〔草昧〕草ニソ存
 カラス、昧ニソ
 明ナラス、暗未
 ノ乱ヲ言フナ
 リ
 カヲ角乙勇カ
 ヲ角競ス

此レ難キ所以ナリト、嘗テ侍臣ニ
 問フ、創業ト守成ト孰カ難キト、玄齡
 カ曰ク、草昧ノ初メ、群雄並起、カヲ
 敵テ而後ニ之ヲ臣トス、業ヲ創ル難
 シ、魏徵カ曰ク、古ヨリ、帝王之ヲ艱難
 ニ得テ、之ヲ安逸ニ失ハサレナシ、成
 ヲ守ル難シト、上ノ曰ク、玄齡ハ、吾ト
 共ニ天下ヲ取リ、百死ヲ出テ、一生
 ヲ得タリ、故ニ業ヲ創ルノ難ヲ知ル、
 徵ハ、吾ト共ニ天下ヲ安ス、常ニ恐ル
 驕奢ハ富貴ニ生シ、禍乱ハ忽スル所

〔温顔〕威神光采
 入ヲノ畏縮セ
 シムルニ足レ、
 故ニ群臣進見、
 スル者皆ナ舉
 措アル失ス、上、自
 ラ之ヲ知テ、常
 ニ假ス顔色ヲ
 以テス、〔東征〕東
 ノ方高麗ヲ征

ニ生スト故ニ成ヲ守ルノ難ヲ知ル、
 然レ尺創業ノ難ハ、既已テニ往ス、守
 成ノ難ハ、方ニ當サニ諸公ト之ヲ慎
 ムヘシト、上、自ラ神采ノ臣下ノ為ソ
 ニ畏レラル、ヲ知リ、温顔ニソ群臣
 ニ接ス、入ヲ導テ諫メシム、諫ル者ヲ
 賞ソ以テ之ヲ来ス、惟末年東征ノ役、
 褚遂良、嘗テ諫レ尺聴カス、太子立ツ、
 是ヲ高宗皇帝ト為ス

〔高宗皇帝〕名ハ治、母ハ長孫皇后〔皇后〕無
 ノ承乾、廢セラレ、長孫無忌、カノテ太宗

〔十二篇〕君躬、建親、求賢、審官、納諫、去讒、戒盈、崇儉、賞罰、務農、開武、崇文、皆女官ノ名〇通鑿ノ注ニ、昭儀ハ其ノ隆重ヲ示スナリ

〔貶〕點ノ、潭州ノ都督ト為ス、參知政事、官宰司ニ陪貳シ、朝政ニ參預スルヲ掌トシ、〔我〕險ヲ狂ナリ、猶ナリ

〔忌〕畏忌、憎惡ヲ謂フ、〔克〕好テ勝テ殘害スルヲ謂フ、左氏傳信

二勸メテ治ヲ立シ、東宮ニ在ル七年、太宗嘗テ帝範十二篇ヲ作テ、以テ賜フ、曰、久、修身治國盡ク其中ニ在リ、一旦不諱ナレバ、更ニ言ナケント、是ニ至テ、位ニ即ク、長孫無忌、褚遂良、先帝ノ遺詔ヲ受ケ、政ヲ輔ク、李勣ヲ以テ左僕射ト為ス、尋テ司空ト為ル、是ヨ後、李世勣、世ノ字ヲ去ル、〇永徽五年、太宗ノ才人、武氏ヲ以テ昭儀ト為ス

〇六年、上、皇后王氏ヲ廢シ、武昭儀ヲ立テ、后ト為シ、ト欲ス、許敬宗、李義

公九年ニ今其言忌克多シト

〔深〕之ヲ怨ム

通鑿ニ、永徽五年、察立ノ志、大

臣ノ從ハサル

ノ畏レ、乃チ昭儀ト無忌カ弟

二幸メ、酬飲

二歡ヲ極ム、無忌

カ寵ヲ姫ノ子三

人ヲ拜シ、大夫

ト為シ、仍テ金

室綴綿十車ヲ

載テ以テ、無忌

二賜フ、上、目テ

從容ニ皇太后

子ナキヲ言テ、

以テ無忌ニ諷

ス、無忌對ルニ

他ノ無語ヲ以テ

府、之ヲ贊ク、褚遂良、可カス、以テ李勣ニ問フ、勣カ曰ク、此レ陛下ノ家事、何ソ必スシモ更ニ外人ニ問ハント、事遂ニ決ス、褚遂良、貶マラル、義府參知政事タリ、義府貌温恭ナルカ若クニ、人ト語ルニ必ス嬉怡微笑ス、而ソ狡險忌克ナリ、故ニ時ノ人謂フ、義府、笑中ニ刀アリ、又其柔ニノ物ヲ害スルヲ以テ、之ヲ李猫ト謂フ

〇武后、長孫無忌カ已レヲ助ケサルヲ以テ、深ク之ヲ怨ム、顯慶四年、無忌カ官ヲ削

シ、竟ニ旨ヲ順ハス、ト悦ビス。俄、皆ナ悦ヒス。安、置、猶、之、放、ク、ト、言、フ、コ、ト、キ、ナ、リ、之、得、ル、ヲ、去、ル、ナ、リ、老、君、即、チ、老、子、中、宮、皇、后、武、氏、一、ト、皇、后、諫、サ、シ、通、鑑、ニ、永、淳、元、年、上、既、偏、ク、泰、山、ヲ、封、ス、感、諫、テ、曰、ク、善、下、泰、山、ヲ、封、シ、太、平、ヲ、告、ケ、群、瑞、ヲ、致、ス、三、皇、五、帝、ト、隆、ヲ、比、

テ、黔州ニ安置ス黔州河南屬遂良先タツテ一年ニ卒ス、是ニ至テ、無忌ト初ノ議者柳奭、韓瑗ト皆ナ殺サル○乾封元年、上、泰山ヲ封ス、亳州ニ至ル亳州河南屬老君ヲ尊テ、玄元皇帝ト為ス○李勣ヲ以テ遼東ノ大總管ト為ス、高麗ヲ伐ツ○總章元年、李勣、平壤ヲ拔ク、其王ヲ降セシム、高麗悉ク平ク、安東都護府ヲ置ク○上元元年、帝、天皇ト稱ス、后、天后ト稱ス○初ノ帝、賤妾ノ子忠ヲ以テ、太子ト為

ス、數年將粟稔セ、四夷交侵シ、兵車歲駕ス、陛下直ク恭默シ、災譴ヲ讓フ、以テシ、乃チ更ニ官室ヲ廣當シ、勞役休マシ、天下望ヲ失セサルナシ、臣、忝、ナク、國家ノ耳目ニ備ル、竊ニ此ヲ以テ、憂ト為ス、朝、陽、山、東、ノ、大、雅、生、民、詩、ノ、鳳、皇、鳴、ク、彼、高、岡、ニ、梧、桐、生、ク、彼、朝、陽、

ス、武后、之、レ、廢、メ、后、ノ、子、弘、ヲ、立、ツ、弘、仁、孝、ナリ、中、外、心、ヲ、屬、ス、后、ノ、意、ニ、忤、フ、之、ヲ、鳩、メ、其、次、ヲ、立、ツ、賢、ト、曰、フ、又、事、ヲ、以、テ、之、ヲ、廢、ス、而、メ、其、次、拈、テ、立、ツ、上、在、位、改、元、ス、ル、者、十、三、日、久、永、徽、頭、慶、龍、胡、麟、德、乾、封、總、章、咸、亨、上、元、儀、鳳、永、隆、開、耀、弘、道、凡、テ、三、十、四、年、而、メ、政、中、宮、ニ、在、ル、者、三、十、年、褚、遂、良、死、セ、シ、ヨリ、後、群、臣、敢、テ、諫、ル、者、ナ、シ、李、善、感、嘗、テ、事、ニ、目、テ、一、夕、ヒ、諫、ム、入、リ、以、テ、鳳、朝、陽、ニ、鳴、ク、ト、為、ス、上、崩

ス、太子撫立テ、是ヲ中宗皇帝ト為ス
 [中宗皇帝]初ノ名ハ顯、撫ト改名ス、既ニ
 即位ス、韋妃ヲ立テ、后ト為ス、改元
 ノ嗣聖ト曰フ、元年、武后帝ヲ癸ノ廬
 陵王ト為ス、[廬陵]國、吉而ノ其弟且ヲ
 立ツ、且、廬器ヲ擁スル七年、改元ノ垂
 拱ト曰ヒ、永昌ト曰フ、太后且ヲ癸ノ
 皇嗣ト為シ、而ノ帝ト稱ス、是ヲ則天
 武氏ト為ス、○則天武氏ハ故ノ荊州
 ノ都督、武士彠カ女ナリ、大原ノ人、年
 四、太宗、其人美ヲ聞キ、召シテ後宮ニ

虚器]為スアル
 ヲ得ス、徒ニ虚
 位ニ尸ス、才人
 ト為ス、太宗、姓
 ヲ武媚ト賜フ

[武ノ字]通鑿ニ
 左武衛將軍武
 連縣公武安李
 君羨

入ル、貞觀十一年ヲ以テ才人ト為ス、
 時ニ天下ノ歌曲ヲ娥媚娘ト名ツク、
 已テニ識ヲ為ス、貞觀ノ末、太白、
 見ハル、太史、占テ云ク、女主、昌ナラシ
 ト、又秘記ヲ傳ス、唐三世ノ後、女主武
 王代テ天下ヲ有タント、太宗、之ヲ惡
 ヲ、嘗テ群臣ト宴ス、各ヲノ小名ヲ言
 ハシ、武衛將軍李君羨、官稱封邑皆
 武ノ字アリ、而ノ小名ハ五娘ト、太宗
 然タリ、目テ笑テ曰ク、何物ノ女子
 乃チナルク勇健ナルヤト、或人奏ス、

七廟太祖三昭
三穆太祖三昭
一英未久高宗
ノス史記ノ張
ラ之ノ傳ニ假
令愚民長陵一
杯ノ土ヲ取ル
陛下何ヲ以テ
其法ヲ加ヤテ
ト註ニ曰ク鄭
云杯ハ手之ヲ
拊ス尺ノ孤子
拊既ニ立テ廢
不周礼ノ注ニ
六尺ハ年十五
ナリ論語泰伯
篇ニ見ユ將ヲ
遣シ將李逸孝
僧懷義沙門又

陵王ト為ス而ノ子旦ヲ立ツ后朝ニ
臨ル制ヲ稱ス武氏ノ七廟ヲ立ツ英
公李敬業^{孫勳死ス敬業爵ヲ嗣ク}勳カ
兵ヲ起シ之ヲ討ス^{檄ニ曰ク一抔ノ}
土未ク乾カス六尺ノ孤安ニカ在ル
ト又曰ク試ニ今日ノ域中ヲ觀ヨ竟
ニ是レ誰カ家ノ天下ノヤト太后將
ヲ遣シ擊テ之ヲ殺ス越王貞^{真高宗弟}
又兵ヲ舉テ臣復ス克タスノ死ス太
后遂ニ大ニ唐ノ宗室ヲ殺ス自ラ璽
ト名ツク皇帝ト稱ス國ヲ周ト号ス

僧伽ト云フ時
人易之ヲ呼フ
云々時人易之
昌宗ニ詔フル
者之ヲ尊テ五
郎六郎ト呼テ
敢テ名イハス
即ハ尊稱ナリ
五六ハ皆其行
ナリ^{盛ニ告密行}
ノ門ヲ開ク細
目ニ告密者ア
リ馬ヲ給シ食
ニ供ス行在所
ニ詣ラシム農
夫^{得夫皆召見}
ヲ得タリ或ハ
不次ニ官ニ除
ス實ナキ者ハ
問ハス是ニ於
元四方告密ノ
者蜂起ス^{銀鍊}

旦ヲ以テ皇嗣ト為ス姓ヲ武ト改ム
時ニ璽年六十七初ノ僧懷義ヲ寵ス
後張易之張昌宗ヲ寵ス兄弟中ニ居
テ事ヲ用ユ時人易之ヲ呼テ五郎ト
為ス昌宗ヲ六郎トス佞者ノ曰ク人
言フ六郎ノ面蓮花ニ似タリト吾レ
謂ラク蓮花六郎ニ似タルノミト璽
人心ノ服セス且ツ内行ノ正カラサ
ルヲ知テ人ノ已レヲ議センヲ畏レ
盛ニ告密ノ門ヲ開ク酷吏侯思止索
元礼周興來俊臣吉頊等ヲ用ユ銀鍊

猶フ成熟ノトシ、言ハ深文ノ吏人ノ罪ヲ入ル、猶フ工ヲ冶ノ之ヲ鑄シ、鍊ノ之ヲ鍛成、熟セシムルコトキナリ、
羅織無辜ヲ網シ、罪狀ヲ成ス、拊脅持

羅織ノ率及逆ヲ以テ人ヲ誣ニ、誅殺勝テ紀ス可ラス、此ヲ用テ、天下ヲ制ス、然レモ權數アリ、善ク人ヲ用ニ、賢才モ亦之カ為メニ用ラレンヲ樂フ、除有功仁恕ニノ法ヲ執ル、豎毎ニ意ヲ屈メ之ニ從フ、將相多ク人ヲ得タリ、魏元忠、婁師德、狄仁傑、姚元崇、皆ナ名相ナリ、宋璟モ亦朝ニ顯ル、師德寛厚清慎ナリ、犯トモ扱セズ、弟代州ノ刺史ニ除セラル、師德カ謂ク、兄弟榮龍過盛ナルハ、人ノ疾ム所ナリ、何

愀然容色変スルナリ

汝ヲ怒ルハ、下文ノ怒ト同シ、他人ノ怒ナシ、他人ノ怒ナシ、非怒ルナリ

ヲ以テカ自ラ免レント、弟ノ曰ク、今ヨリ人某ノ面ニ唾ハクト雖モ某之ヲ扱シ、庶クハ兄ノ憂ヲ為サスト、師德、辭然トノ曰ク、此吾カ憂ヲ為ス所以ナリ、人汝ノ面ニ唾スルハ、汝ヲ怒ルナリ、而フ之ヲ扱ハ則チ其意ニ逆テ其怒ヲ重スナリ、唾ハ扱ハサレモ自ラ乾ク當サニ笑テ之ヲ受クヘキノミト、師德、毎ニ仁傑ヲ薦ム、而ルニ仁傑、毎ニ師德ヲ毀ル、豎仁傑ニ語テ曰ク、朕ノ卿ヲ用ユルハ、師德カ薦

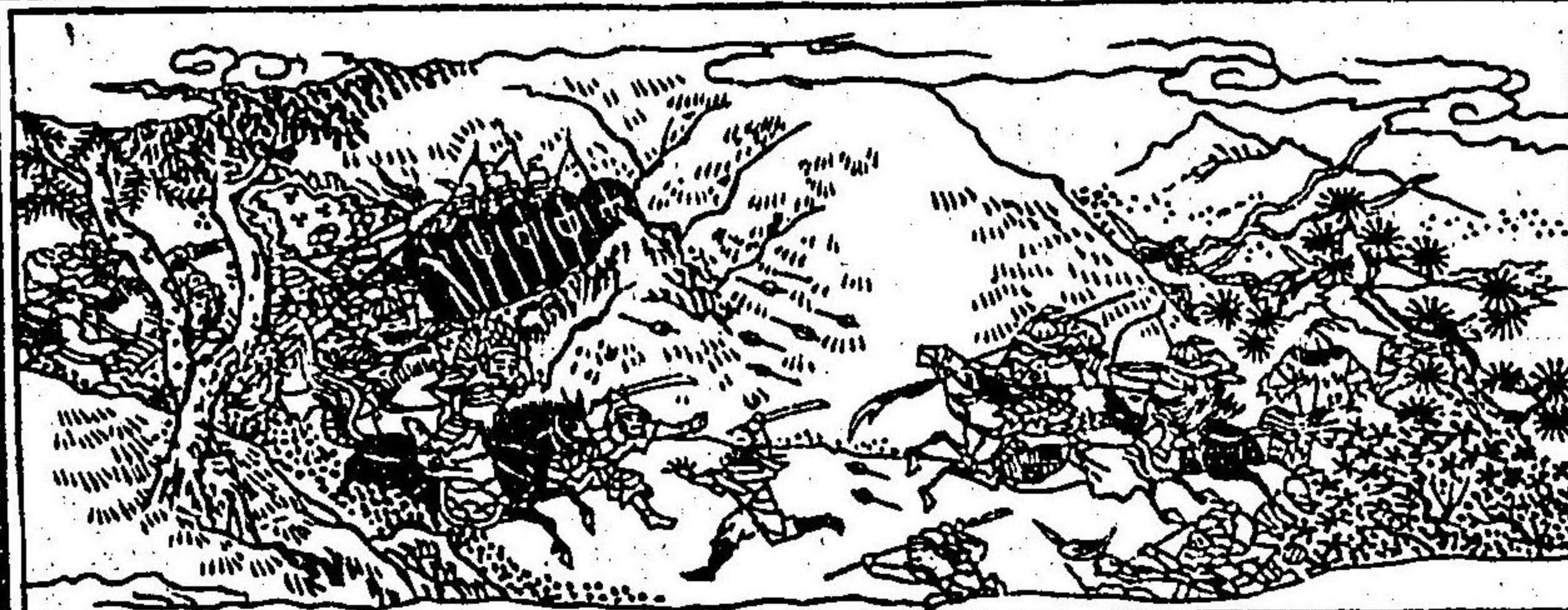
〔藥物〕規諫ニ喻
 フナリ、是レ良
 疾ニ利アリ、忠
 言ニ利アリ、ソ
 行ニ利アリ、ソ
 意ナリ
 〔天下ノ桃李〕士
 フ薦ル所ヲ謂
 ナリ、桃李ト為
 ナリ、説苑ニ、簡
 子曰ク、唯賢者
 能ク思ニ報ス
 ルヲ為ス、不肖
 者、能ハス、夫レ
 桃李ヲハ、樹
 夏ハ、休息ヲ得
 秋ハ、蒺藜ヲ得
 得ル者ハ、夏、休
 ル者ハ、夏、休
 フ得ル者ハ、秋
 其刺ヲ得ルハ、秋

多ク仁傑ヲ規諫、ス且ツ曰ク、明公ノ
 門ニハ珍味多シ、行冲請フ、藥物ノ未
 ニ備ヘント、仁傑笑テ曰ク、君ハ正ニ
 吾カ藥籠中ノ物、何ソ一日モ無カル
 可ンヤト、姚元崇等數十人、皆仁傑カ
 薦ル所、或人曰ク、天下ノ桃李悉ク
 公ノ門ニアリト、仁傑曰ク、賢ヲ薦ル
 ハ國ノ為ノモ、私ノ為ノニ非ルナ
 リト、翌、嘗テ仁傑ニ問フ、一佳士ヲ得
 テ、之ヲ用ント欲スト、仁傑曰ク、張柬
 之ト云者アリ、老タリト雖、斥宰相ノ

一説ニ、考試ノ
 官、門生ヲ取ル
 所、口之ヲ桃李
 ト謂フ
 上陽宮ニ東都禁
 苑ノ東ニアリ、
 皇城ノ西北ニ
 接ス
 〔是冬〕廼ス朝ニ
 臨ム九ノ朝ニ
 二年、通鑑ニ、則
 天、既ニ廼ス、遺
 制、右ノ帝号ヲ去
 テ、右ト稱ス、改
 元、カニ本者、十
 見、詳カニ本者、十

オナリト、後竟ニ東之ヲ用テ、相ト為
 ス、翌、疾ニ寝スレ甚シ、東之、崔玄暉、敬
 暉、桓彦範、袁恕己ト、羽林將軍李多祚
 等ヲ率テ、兵ヲ舉テ内乱ヲ討シ、太子
 ヲ東宮ニ迎ヘ、関ヲ斬テ入ル、易之、昌
 宗ヲ瀋下ニ斬リ、翌ヲ上陽宮ニ遷ス
 尊号ヲ上テ、則天大聖皇帝ト曰フ、是
 冬廼ス、年八十二、唐ヲ易テ周ト為ス
 者、十又六年、改元スレ者十四、曰ク、天
 授、如意、長壽、延載、曰ク、万歳通天、
 号曰ク、神功、聖曆、久視、大足、長安、長安

張東之等兵ヲ奉テ内乱ヲ討スル圖



五年、帝位ニ復ス、唐ト号ス、帝即位ノ
 二月ニノ廢セラレ、均州ニ居ル者一
 年^二屬州^一河南房州ニ居ル者十三年、還
 テ太子ト為ル者又八年、而ノ後正ニ
 及ル、韋氏復タ皇后ト為ル、上、房陵ニ
 在テ自殺セシト欲ス、^{房陵郡名、后}
 每ニ之ヲ止ム、上、与^私ニ誓フ、異時
 幸ニ復タ天日ヲ見ハ、惟欲スル所ニ
 禁セスト、是ニ至テ、朝ニ臨ムコトニ
 后、必ス帷幔ヲ施シテ、殿上ニ坐シ、朝
 政ヲ預リ、聞ク、武氏、高宗ノ世ニ在力

双陸ノ點籌ヲ教
 博米ノ點籌ヲ
 フ記入張東之
 リ五ノ張東之
 崔玄暉敬暉拒
 彦範袁恕已皆
 ナ前ニ武氏ノ
 乱ヲ平クル者

如シ、上ノ女、安樂公主^{安樂邑、環武三}
 思ノ子ニ適ク^{武三思ノ}三思、是ヲ以
 テ官禁ニ入ヲ得テ、韋后ニ通ス、后、三
 思ト双陸ス、而上、為ノニ點籌ス、上、遂
 ニ三思ト政事ヲ畱議ス、張東之等、皆
 制ヲ受ク、五人皆王爵ヲ賜テ、政ヲ罷
 ム、已テニノ遠貶メ、之ヲ殺ス、^{通鑑}
 元年、武三思、韋后ト日夜、暉等ヲ^龍
 功ヲ侍ミ、權ヲ專ニス、將テ^{社稷}
 利アラサシ、封ノトス、目テ^為
 シ暉等ヲ封ノトス、目テ^{其政事ヲ罷}
 ノシムルニ若カス、外ハ^{功臣ヲ尊}
 失ハス、内實ハ^{之カ}權ヲ奪フナリト
 上、以テ然ト為シ、敬暉^トヲ以テ、平陽王
 ト為シ、彦範ヲ^狀陽王ト為シ、東之ヲ

〔二張〕易之、昌宗
〔處分〕処ハ、制ナ
リ、定ナリ、分ハ、
當然スル所ナ

カ上ノ意ヲ感悟スルニ賴テ、政事皆
太子ノ處分ヲ取ル上、復タ帝ト為ル
ヨリ、改元スル者ニツ、曰ク、景雲、太極
改元ニ、又延和ト是ニ至テ、三年、自ラ
太上皇ト稱シ、位ヲ太子ニ傳フ、是ヲ
玄宗明皇帝ト為ス
〔玄宗明皇帝〕名ハ隆基、初ノ臨淄王ト為
ル、韋氏ノ乱ニ、陰ニ才勇ノ士ヲ聚テ、
密ニ匡復ヲ謀ル、太宗初ノ驍勇ヲ選
テ百騎ト為ス、武后、増メ千騎ト為ス、
左右ノ羽林ニ隸ス、中宗、之レヲ万騎

儲嫡ヲ建シト
立スル太子ヲ建
侍官カ三品官
三品官ニ置為
スルヲ得ス、黃
衣廩食、黃衣ハ
官官ノ賤者ノ
服、廩食ハ、食ヲ
倉廩ニ取ルナ

ト謂ス、使ヲ置テ之ヲ領セシム、隆基、
皆其ノ豪傑ニ結ス、卒ニ韋氏ヲ誅シ、
睿宗ヲ奉ス、封セラレテ平王ト為ル、
睿宗、將サニ儲嫡ヲ建シトス、長子成
器、平王ノ有功ナルヲ以テ、カテ之ニ
讓ル、遂ニ太子ト為ル、尋テ禪ヲ受ク
○開元元年、高力士、右監門將軍ト為
ル、内侍省ノ事ヲ知ス、初メ太宗、制ヲ
定メ内侍省ニ三品官ヲ置カス、黃衣
廩食シ、門ヲ守リ、命ヲ傳ルノミ、是ニ
至テ、三品將軍ニ除スル者、復多シ、官

〔紫微令〕玄宗中
 書省ヲ改テ紫
 微省ト曰フ、令
 八、中書令ナリ
 〔俗樂〕休優雜伎
 〔左右〕教坊中官
 〔太常〕二、隸七、
 梨園弟子初ノス
 隋二、法曲アリ、
 共色、清テ雅ニ
 近シ、明皇之レ
 ヲ愛ス、坐部ノ
 伎子弟三百ヲ
 選テ梨園ニ教
 二、皇帝梨園弟
 子ト號ス、〇唐
 書、礼樂志ニ、樂
 フ分テ二部ト立
 為ス、堂下ヲ立
 テ奏ス、之ヲ立

官、増ノ三千人ニ至ル、内侍ノ盛ナル、
 此ニ始マル、〇姚崇開元二十七年、
 元、聖文神武皇帝ト曰フ、故ニ元紫微
 之、尊号ヲ避ケテ、崇ト改名ス、
 令ト為ル、〇二年、太常ハ、礼樂ノ司、
 二、俗樂ヲ併セ典トルヘカラサルヲ
 以テ、乃チ更ニ左右ノ教坊ヲ置ク、之
 ヲ皇帝梨園ノ弟子ト謂フ、〇珠玉錦
 綉ノ殿前ニ焚ク奢靡ヲ鑒ニ、上、風俗
 久、乘輿服御、金銀器玩、且ク有司
 銷毀ノ、以テ軍國ノ用ニ供セシム
 シ、其、珠玉錦綉ヲ殿前ニ焚ク得ル
 以下、皆織成ヨリス、天錦下更テハ、
 力、為ス、今織成ヨリス、天錦下更テハ、
 珠玉ハ、染テ、
 〇三年、
 宋王成器等ノ宅、其側ヲ環ル、
 盧懷慎、黃門監ト為ル、懷慎、清謹ニ
 儉素ナリ、妻子、饑寒ヲ免レス、居ル所
 口、風雨ヲ蔽ハス、姚崇、嘗テ謁告スル
 十餘日、政事委積ス、懷慎、決スル能ハ
 ス、崇出ツ、須臾ニ裁決シ盡ク、顧テ齊
 斡ニ謂テ曰ク、〔齊斡〕紫微我相タル何
 如シ、斡力曰ク、時ヲ救フ人相ト謂フ

部、伎ト謂フ、堂
 上ニ坐ノ奏ス、
 之ヲ坐部伎ト
 謂フ、〔花〕
 華ハ、花附ノ花
 ヲ承ル者ナリ、
 花、華相施ハ、詩
 ノ棠、棟ノ章、
 トノ、サ、
 ラ、
 弟ニ、
 ノ、
 テ、
 ル、
 〔黃門監〕開元
 年、
 天、
 ス、
 為、
 告、

錦者ハ、織ル等ノ物ヲ得ルナカレ、
 〇興慶宮ヲ作ル、樓ヲ置ク、西ヲ花
 幕相施ト曰フ、南ヲ鞞政務本ト曰フ、
 宋王成器等ノ宅、其側ヲ環ル、〇三年
 盧懷慎、黃門監ト為ル、懷慎、清謹ニ
 儉素ナリ、妻子、饑寒ヲ免レス、居ル所
 口、風雨ヲ蔽ハス、姚崇、嘗テ謁告スル
 十餘日、政事委積ス、懷慎、決スル能ハ
 ス、崇出ツ、須臾ニ裁決シ盡ク、顧テ齊
 斡ニ謂テ曰ク、〔齊斡〕紫微我相タル何
 如シ、斡力曰ク、時ヲ救フ人相ト謂フ

軒ニ臨ム軒ハ
庭除ナリ軒ニ
臨ムハ御坐ル
陸ニ臨近スル
ヲ謂フナリ檢
括檢ハ括括ハ

可ト、懐慎、オノ及ハサルヲ知テ、事コ
トニ崇ヲ推ス、時ニ之ヲ伴食宰相ト
謂フ。〇四年、姚崇罷ム、通鑑ニ、主書趙
信當ス、崇復タ、路ヲ受ク、事覺ル、鞠問死
ニ當ス、城一、曲故ス、教ノ特ニ、誨カ名ヲ會
ス、救、相位ヲ避シ、代、諸、家、環、黃門監ト
懼シ、環、相ト為リ、務テ人ヲ擇フ、百官
為ル、環、相ト為リ、好テ顔ヲ犯シ、正諫
各、其職ヲ得タリ、敬憚ス、環、姚崇ト相繼
ス、上、甚タ之ヲ敬憚ス、環、姚崇ト相繼
テ政ヲ為ス、崇ハ善ク變ニ應ス、環ハ
善ク文ヲ守ル、志操同シカラク、然レ

結、各ヲノ籍ニ
附キ、土著當差
事、太宗ノ時、僕
射、李、靖、疾ヲ以
テ、辭ス、詔ス、疾
小ク、瘳ヘハ、三
兩日ニ一ク、ヒ
中書門下ニ至
リ、事ヲ平章セ
ヨト、同平章事
ノ名、此ニ始マ
ル、勸農使、官、曩
田ヲ掌トル

氏心ヲ協セテ輔佐ス、賦役ヲノ寛平
ナラシム、刑罰清省ニシテ百姓富庶ナ
リ、唐ノ世ノ賢相、前ハ房、杜ヲ稱シ、後
ハ姚、宋ヲ稱ス、姚ハ比ヲ得ルナシ、二
人進見スルコトニ、上、輒ナ之カ為メ
ニ起ツ、去レハ則チ軒ニ臨テ之ヲ送
ル。〇八年、宋、璟罷ム、思、錢ノ以テ、融
ヲ禁メ、盜鑄スル者、怨。〇九年、宇、文、融
言ク、天下ノ戸口、逃移シ、巧偽甚ク衆
シ、請フ檢括ヲ加ヘント、同平章事、源
乾曜之レヲ賛成ス、融ヲ以テ勸農使

卷之... 唐 玄宗 五

同三品太宗ノ
時李勣太子詹
事以下三品中書
門下ノ三品侍
同中書令ハ侍
中ナリ、同三品

ト為ス奏メ勸農判官十人ヲ置ク、天
下ヲ分行シ、競テ刻急ヲ為ス州縣、風
ヲ承テ勞擾タリ、百姓之レヲ苦ム○
同三品張說建議ノ壯士ヲ召シ募テ、
旬日ニ精兵十三万ヲ得タリ、諸衛ニ
分隸ノ更番メ上下ス、兵農ノ分ル、
此ニ始マル○十三年、長從宿衛ヲ更
命ノ曠騎ト為ス○二十一年韓休、同
平章事タリ、休、人ト為リ峭直ナリ上、
或ハ宴遊シ小過アレハ、輒テ左右ニ
謂テ日久、吾瘦タリト雖モ、天下肥ク
リ

ノ名此ニ始マ
ル上ニ次ヲ分
テ更替ス上ハ
宿衛ヲ謂ル下
ハ家ニ歸ルハ
謂フ曠騎曠ハ
弩ヲ張ルナリ
府兵ノ法壞ル
張說請フテ兵
ヲ募リ宿衛セ
シ曠騎ト注
号ス網鑿ノ射
二曠騎ニ射
騎ト曰フ其法
十人ヲ火ト為
ス五人皆首長
為ス材勇ノ者
リ又材勇ノ者
ヲ擇ミ番頭ト
為ス弩射ヲ習
フ、曠騎ナリ
狹教狹狹行教

諫疏已テ至ル、左右ノ曰ク休、相ト
為ル、陛下殊ニ舊ヨリ瘦タリト、上、歎
メ曰ク、吾瘦タリト雖モ、天下肥ク
ト、休罷ム韓休、蕭嵩ト協ハサルヲ以
一年三月、裴光庭卒ス、上、蕭嵩ニ以
光庭ニ代ル者ヲ問フ、嵩、王北ヲ薦ス、
上ト欲ス、北、韓休ニ讓ル、嵩、之ヲ言
上以テ相ト為ス、始メ嵩、以テ休、
与和事ヲ共ニシ、易シト、故ニ之ヲ引
阿ラフ事、嵩、漸ク張九齡、之レニ繼
二十二年、九齡、中書令ト為ル、李林甫、
同三品タリ、林甫、柔佞ニシテ狹教多シ、
深ク宦官及ヒ妃嬪ノ家ニ結ブ、上ノ

下ニ布キ咸ク
宴樂セシム
鏡者蓋シテ
時俗古鏡ヲ
尚ス故ニ群
各自ラ其至
スル所ノ鏡
ノ神以テ帝
邪ヲ避ク能
疾病ヲ除キ
昌堅固ナル
ヲ表鏡ノ如
キ此

節ニ群臣皆寶鏡ヲ獻ス、九齡、前世ノ
興廢ヲ述テ、千秋金鑑錄五卷ヲ為テ
之ヲ上ツル。○九齡罷ム、李林甫中書
令ヲ兼ヌ、上位ニ在ル久シ、漸ク奢欲
ヲ肆ニス、林甫遂ニ政ヲ專ニスルヲ
得タリ、通鑑ニ初ノ上、林甫ヲ以テ相
テ曰ク、宰相ハ國ノ安危ニ繫ル、陛下
ノ憂ヲ相トセハ、臣恐クハ異日社稷
ム、上悦ヒス、漸ク奢欲ナリ、九齡
フ、至テ善キ所ノ嚴僉之罪人ノ思
ニ屬ヲ請ヲ以テ上、九齡ヲ以テ阿
黨ト為シ、政ヲ罷ム、事ハ詳ニ
玄宗開元二十年四月二日見ユ

傾巧傾側ノ機
巧ナリ

六年、趙王ヲ立テ、太子ト為ス。
三ノ子第○二十七年、孔子ヲ追謚メ、文宣
王ト為シ、南面ノ王者ノ服ヲ被ラシ
ム、弟子ヲ追贈シ、皆公侯伯ト為ス。○
二十九年、安祿山ヲ以テ營州ノ都督
ト為ス、祿山、傾巧ニ善ク人ヲ事ス、
上ノ左右平盧ニ至レハ、皆厚ク賂フ
平盧城、漁陽ニアリ、一説ニ、盧當サニ
虜ニ作レヘシ、漁陽縣ニ、平虜渠アリ、
即チ其地ト、未タ帰レハ之ヲ譽ム、上、
是否ヲ詳ニセズ、
益以テ賢ト為ス。○天寶元年、祿山ヲ
以テ平盧ノ節度使ト為ス。○二年、祿

玄宗楊貴妃ヲ寵ス
ル圖



山入朝ス○三年、年ヲ改テ載ト曰フ
○祿山ヲ以テ、范陽ノ節度使ヲ兼シ
ム、節度使ト為ス○四歳、揚大真ヲ
以テ貴妃ト為ス、大真故ノ蜀州ノ司
戸、玄宗玳ノ女ナリ、蜀州四川ニ屬ス、今
ヲ佐スル上ノ子壽王ノ妃ト為ル十
年、壽王名上、其美ヲ見テ、自ラ其意ヲ
以テ、乞テ女官タラシム、且ツ壽王ノ
為メニ別ニ娶ル、而メ後ニ之ヲ納ル、
遂ニ寵ヲ專ニス○六載、祿山ヲ以テ
御史大夫ヲ兼シム、祿山、請テ楊貴妃

〔從祖兄〕曾祖ヲ
同フスルノ兄
〔裕蔵〕金帛ノ舍

カ兒ト為ル○九載、祿山ニ爵ヲ東平
郡王ト賜フ、河北道ノ採訪處置使ヲ
兼シム、祿山、入朝ス、楊劍兄弟姉妹、皆
戲水ニ住テ之ヲ迎フ、劍ハ、貴妃ノ從
祖況ナリ、禁中ニ出入スルヲ得タリ、
是ヨリ先キ、判度支、屢奏ス、裕蔵充
スト、上、群臣ヲ帥テ、之ヲ觀ル、是ニ由
テ、金帛ヲ視ル、糞土ノ如シ、賞賜限ナ
シ、劍ニ名ヲ國忠ト賜フ○十載、安祿
山ノ為メニ第ヲ起ス、華麗ヲ窮極ス、
上、日ニ諸楊ヲメ之ト游ハシム、祿山、

此胡祿山ハ、胡人故ニ此胡ト曰フ
赤心丹心ト義同シ

祿與祿帛ヲ以テ
范子ト為シテ之ヲ
托弁スルナリ
昇對舉ナリ

体肥大ナリ、腹垂テ膝ヲ過ク、上、嘗テ
戯ニ其腹ヲ指テ曰ク、此胡ノ腹中、何
ノ有ル所ソ、其大乃チ尔ルト、對テ曰
ク、更ニ餘物ナシ、止、赤心アルノミト、
祿山、禁中ニ入レハ、上、貴妃ト共ニ坐
ス、先ツ貴妃ヲ拜ス、上、其故ヲ問フ、曰
ク、胡人ハ、母ヲ先ニシ、父ヲ後ニス
ト、祿山カ生日、賜予甚ク厚シ、後チ三日、
召シ入ル、貴妃、錦綉ヲ以テ大襦祿ヲ
為テ、祿山ヲ裹ミ、官人ヲシテ祿與ヲ以
テ、之ヲ昇シ、上、後官ノ勸笑ヲ聞テ、

安祿山貴妃ヲ拜スル圖



其故ヲ問フ、左右、貴妃ノ祿兒ヲ洗ヲ
以テ對ス、上、往テ之ヲ觀テ喜ヒ、妃ニ
浴兒金銀錢ヲ賜ヒ、復ク厚ク祿山ニ
賜ヒ、歡ヲ盡メ罷ム、是ヨリ宮掖ニ出
入シ、通宵出テス、頗ル醜聲ノ外ニ聞
ユルアレバ、上、亦疑ハス、又祿山ヲ以
テ、河東ノ節度使ヲ兼シム、李林甫、祿
山ト語シ、每ニ其意ヲ揣知テ、先ツ之
ヲ言フ、祿山、驚服ス、見ルコトニ、感冬
ニモ必ス汗ス、林甫ヲ謂テ十郎ト為
ス、既ニ范陽ニ歸ル、其下長安ヨリ帰

我死ナント上林
甫ノ好ク點檢
スヘキノ語ニ
目テ罪ヲ得テ
以テ死セシト
應ル

伏ニ立ツ馬
ノ旧儀ニ毎日
飛龍廐ノ馬八
匹ヲ以テ分テ
左右ト為シ宮
門ノ外ニ列立
ス南衙ノ立伏
馬ト号ス

レハ、必ス十郎何ヲ言ト問ス善言ヲ
得レハ、則チ喜ス、或ハ但言フ安大夫
ニ語レ、好ク點檢スヘシト、即チ日久
噫、嘻、我死ナント○十一載、李林甫卒
ス、林甫、上ノ左右ニ媚事ヘ、上ノ意ヲ
迎合メ、以テ寵ヲ固フス、言ヲ杜絶シ、
聰明ヲ掩蔽ス、嘗テ諸御史ニ語テ曰
ク、今、明主上ニ在リ、群臣將順、之レ暇
アラス、復タ何ノ論スル所ソ、諸君、伏
ニ立ツ馬ヲ見スヤ、終日色ナケレハ、
三品ノ瓊豆ニ飲ク、一タヒ鳴ケハ、輒

李林甫偃月堂ニ獨
坐スル圖



チ去ラル、後、鳴カサレヲ欲ト雖
得ンヤト、賢ヲ妬ミ、能ヲ嫉ミ、已レニ
勝ルヲ排抑ス、性、陰險ナリ、人、以テ口
ニ蜜アリ、腹ニ劍アリト為ス、毎夜偃
彫堂ニ獨坐シ、深思スル所アレハ、明
日必ス誅殺アリ、屢大獄ヲ起ス、太子
ヨリ以下、皆之ヲ畏ル、相位ニ在ル十
九年、天下ノ乱ヲ養成ス、而メ上悟ス
然、氏、祿山、林甫カ術數ヲ畏ル、故ニ其
世ヲ終ルマテ、未タ敢テ反セス、是歲、
國忠、相ト為リ、祿山必ス反セント言

文 貞 唐 玄宗 至

〔蕃將〕胡人ノ將
タル者〔漢將〕漢
人ノ將タル者

〔輕〕馬勒

ノ、且ツ曰ク、試ニ召ヘ、必ス来スト○
十三載、禄山、召ヲ聞テ即チ至ル、上、是
ニ由テ、國忠ノ言ヲ信セス、禄山ニ左
僕射ヲ加ヘテ帰ラシム、○十四載、禄
山、蕃將ヲ以テ、漢將ヲ伐ント請ス上、
猶ヲ疑ハス、表請メ馬三千匹ヲ獻ス、
匹コトニ二人、輕ヲ執ル、二十二ノ將
部、河南ニ送ル、上、始テ之ヲ疑フ使ヲ
遣メ、其獻ヲ止ム、禄山、宋ニ路メ、拜セ
ス、曰ク、馬獻セサルモ亦可ナリ、十月
當サニ京師ニ詣ルヘシト、使還テ亦

〔元〕解散スルハ自ラ
三十四郡ノ河北
一道、領郡二十
有四、置不、料ノ
有、何ノ状、猶ヲ
語、何ナレル人ト
言フコトシ

表スルナシ、是冬、禄山、遂ニ反ス、所部
ノ兵、及ヒ契、契丹ヲ發ス〔契〕匈奴、別種〔契丹〕東胡
ノ種、元、魏ノ時、凡テ十五万、范陽ヲ發
シ、引テ南ス、步騎精銳、煙塵千里、時ニ
承平又シ、百姓兵革ヲ識ラス、州縣皆
風ヲ望テ疑、鮮紅進テ東京ヲ陷ル〔東京〕東
洛、○平原ノ太守、顏真卿〔平原〕郡、山東
州、德兵ヲ起メ、賊ヲ討ス、上、始メ河北、賊
ニ從ト聞キ、歎ノ曰ク、二十四郡、曾テ
一人ノ義士ナキヤト、真卿力奏至ル
ニ及テ、大ニ喜テ曰ク、朕、真卿何ノ状

卷

頭

唐

玄宗

五

馬崑ノ命位ヲ
傳ヘシト欲ス
スルヲ命ヲ宣旨
スルヲ謂フ

ヲ選テ留ルヲ請ス上、太子ニ命メ之
ヲ慰撫セシム、父老太子ノ馬ヲ推シ、
復タ行ヲ得サラシム、皇孫クワン彬ヒンヲ上
ニ白サシム、上ノ曰ク、天ナリト、太子
ニ諭セシメテ曰ク、汝キ之ヲ勉メヨ、西
北諸胡ハ吾之ヲ撫スル素ヨリ厚シ、
汝必ス其カラ得シ、且ツ宣旨アツテ、
位ヲ傳ント欲スト、太子平涼ニ至ル、
朔方ノ留後杜鴻漸トクノ官名、猶ヲ留
靈武ニ迎ヘ入ル靈武郡ノ名、馬崑ノ
命ニ遵ハント請フ、賤、五夕ヒ上ツル、

乃チ許ス、上ヲ尊テ、上皇天帝ト為ス、
在位四十五年、改元スル者三ツ、曰ク
先天、開元、天寶、太子立ツ、是ヲ肅宗皇
帝ト為ス

肅宗皇帝初ノ名ハ玢、郭ト改名ス、忠王
ヨリ太子ト為ル、二十年ニノ祿山ノ
乱ニ遇ス、是ニ至テ、位ニ即ク、京兆ノ
李泌、幼ヨリ才敏ヲ以テ聞ニ、上、東宮
ニ在テ、嘗テ泌ト布衣ノ交ヲ為ス、使
ヲメ之ヲ召ハシム、靈武ニ謁見ス、事
大小ト無ク之ト謀ル、上皇、成都ニ至

〔丹室〕王丹、傳國ノ室

〔婁婁ノ子〕婁思

〔ハヲノ〕李指兒

ル、丹室ヲ遣シ、靈武ニ如シム。○使ヲ遣ス、兵ヲ回紇ニ徵ス。○招討節度使房瑄、賊ト陳濤邪ニ戰フ。〔陳濤邪〕地、咸陽、車戰ヲ用テ大敗ス。○至徳ニ載、安慶緒ノ禄山ヲ殺ス、禄山、兵ヲ起シヨリ以來、目昏シ、是ニ至テ、復夕物ヲ見ス、又疽ヲ病テ躁暴ナリ、婁婁ノ子ヲ以テ慶緒ニ代ヘテ、嗣ト為サント欲ス、慶緒、人ヲノ之ヲ弑セシム、而ノ自立ス、禄山カ僭号、僅ニ一年餘。○上鳳翔ニ至ル。〔鳳翔〕府、陝西ニ屬、回紇、子

張巡許遠等睢陽ヲ守ル圖



葉護ヲ遣シ、精兵四千人ニ將トノ至ル、天下兵馬都元帥廣平王侑〔廣平〕郡、屬ス、今ノ副元帥郭子儀、朔方等ノ軍及ヒ回紇西域ノ衆ヲ將テ、鳳翔ヲ發シ、長安ニ至テ、賊ヲ擊ツ、賊大敗ス、大軍、西京ニ入ル。〔西京〕長安、留テ鎮撫スル。三日、軍ヲ引テ東ニ出テ洛陽ニ至ル、回紇ト夾擊ツ、賊大ニ敗ル、遂ニ東京ヲ復ス、安慶緒、走テ鄴ヲ保ス。○賊ノ將尹子奇、睢陽ヲ陷ル、張巡、許遠、之レニ死ス、巡、先ニ雍丘ヲ守ル、軍ヲ寧陵

卷一百一十一

唐書卷一百一十一

唐肅宗

六十一

〔茶紙〕茶蹄ニ云
茶ト紙ト

ニ移シ〔寧陵〕郡、歸屢賊ヲ破ル、既ニメ
睢陽ニ入ル、遠ト共ニ守テ屢賊ヲ却
ク、食益ク、或人城ヲ棄シト欲ス、巡、遠、謀
テ曰ク、睢陽ハ、江淮ノ保障ナリ、若シ
之ヲ棄テハ、賊必ス長驅セシ、是レ江
淮ナキナリ、如ス堅ク守テ以テ救ヲ
待シニハト、茶紙ヲ食フ、盡ク、馬ヲ食
フ、馬盡ク、雀ヲ羅シ、鼠ヲ掘ル、雀鼠又
盡ク、巡、愛妾ヲ殺シ、以テ士ニ食シム、
四万人、僅ニ四百ヲ餘ス、終ニ叛ク者
ナシ、賊、城ニ登ル、將士因病メ、戦フ能

〔方〕烈ナリ、猛ナ
リ南霽雲雷万春
皆巡カ將

〔元年〕是歳、復ト夕
載ヲ改テ、年ト夕
為ス〔九節度〕朝
方ノ郭子儀、淮
西ノ魯靈、興平
ノ李渙、滑、平
許州、鎮西、北
庭ノ李嗣業、鄭
蔡ノ李光遠、河
南ノ李光弼、澤
東ノ王思礼

ハス、巡、西ニ向ヒ、再拜メ、曰ク、臣、カ竭
タリ、生テ既ニ以テ陛下ニ報スルナ
シ、死セハ當サニ厉鬼ト為テ、以テ賊
ヲ殺スヘシト、城遂ニ陥ル、巡、遠、執ヘ
ラル、南霽雲、雷万春等、三十六人、皆殺
サル○上皇、蜀都ヲ發メ、西京ニ還ル
○乾元元年、郭子儀等ノ九節度ニ命
メ、安慶緒ヲ討セシム○二年、史思明、
兵ヲ引テ慶緒ヲ救フ、九節度ノ兵、鄴
ニ潰ニ、思明、慶緒ヲ殺シ、范陽ニ還テ
僭号ス仍ヲ大燕皇○李光弼、郭子儀

唐書卷之... 唐肅宗 李

〔西内〕唐大明宮
ヲ以テ、東内ト
為シ、大極宮ヲ
西内ト為シ、興
慶宮ヲ、南内ト
為ス〔樓〕二御
天子ノ臨ム所
ヲ御ト曰フ

二代テ、朔方ノ節度使、兵馬元帥ト為
ル、光弼、号令嚴整ナリ、始ノ至ルトキ
ニ、号令一夕ヒ施セハ、士卒壁壘、旗幟
精明、皆ナ變ス、史思明ト戦テ、屢之ヲ
敗ル○上元元年、太僕李輔國、上皇ヲ
西内ニ迁ス、上皇、興慶宮ヲ愛ス、蜀ヨ
リ歸テ、即チ之ニ居ル、多ク樓ニ御ス
父老過ル者、往々ニ瞻拜シ、万歳ト呼
フ、上皇、常ニ楼下ニ於テ、賜フニ酒食
ヲ以テス、又嘗テ將軍郭英乂等ヲ召
メ、樓ニ上セ、宴ヲ賜フ、輔國、言ク、上皇、

命ヲ精テ射士
五ノ百騎ヲ將テ
如ク迎テ西内ニ
リ、世俗ニ云、南
食

〔少子〕朝清〔入〕
ノ駱悅
八道ノ行營即
ナ前ノ光弼子儀
而ノ代テ朔方ノ
節度ヲ兼ス、故
ニ云ク、八道ノ
行營

興慶ニ居リ、日ニ外人ト交通ス、陳玄
禮、高カ士、上ニ不利ヲ謀ルト、屢上ニ
啓メ、之ヲ迁ス、許サス、上ノ不豫ニ乘
メ、衆ヲ率テ劫メ迁ス、上皇、日ニ以テ
憚ヒス、目テ葦ヲ茹ス、穀ヲ辟ク、寢以
テ疾ヲ成ス○二年、史朝義ノ思、史思
明ヲ殺ス、思明、少子ヲ愛メ、朝義ヲ思
ム、其敗軍ニ目テ之ヲ斬ント欲ス、朝
義、人ヲノ思明ヲ射殺サシム、而メ自
立ス○李光弼、大尉ト為ル、八道ノ行
營ヲ統ス、臨淮ヲ鎮ス〔臨淮〕郡、淮西
州

登遐天子ノ崩
スルヲ登遐ト
曰フ

○寶應元年、郭子儀、諸道節度行營ニ
知タリ、興平定國等ノ軍ノ副元帥ヲ
兼ヌ、復朔方ニ入ル〔興平、陝西ニ屬ス、
今ノ興平縣〔定國〕
即チ馮〕○上皇、西内ニ崩ス、傳位ノ後
七年ナリ、壽七十八○上、疾ニ寢ス、上
皇ノ登遐ヲ聞テ、轉劇シ、遂ニ崩ス、在
位七年、改元スル者四ツ、曰ク、至德、乾
元、上元、寶應、初ノ張皇后、李輔國ト相
ヒ表裡シ、權ヲ專ニシ、事ヲ用ニ、晚ニ
更ニ隙アリ、上、病篤シ、后、太子ヲ召シ、
謂テ曰ク、輔國、久ク禁兵ヲ興ル、陰ニ

〔兩京〕長安洛陽

亂ヲ作スヲ謀ル、誅セヌノハアル可
クスト、太子、上ノ体ヲ震驚センヲ恐
テ、可カス、輔國、其謀ヲ聞ク、上、崩ス、后
ヲ殺シ、而ノ後ニ太子ヲ引テ、之ヲ立
ツ、是ヲ代宗皇帝ト為ス
〔代宗皇帝〕初ノ名ハ玢、廣平王ニ封セラ
ル元帥ト為テ、兩京ヲ定ム、楚王ニ封
セラル、成王ト改ム、已テニノ太子ト
為ル、豫ト改名ス、是ニ至テ、位ニ即キ、
李輔國ヲ誅ス、雍王、遙ヲ以テ天下兵
馬元帥ト為シ、諸將及ヒ回紇ノ援兵

卷頭

十八史略諸解卷七

唐 代宗

空

〔成德軍〕常山、号ノ成德軍ト為ス、節度、恒、趙、深、定、易、等ノ州ヲ鎮ス

〔冀〕希ナリ、望ナリ、曰テ之ニ授ク、曰襲ノ之ニ節度使ヲ授ク

ヲ率テ、史朝義ヲ討ス、大ニ之ヲ敗ル、賊將李懷仙、朝義ヲ斬テ、以テ降ル、賊將張志忠ヲ以テ成德軍ニ鎮セシム、姓名ヲ李宝臣ト賜フ、薛嵩、相衛、刑、名、貝、磁州等ノ州ヲ鎮ス、〔相〕衛、刑、名、貝、磁州、河東ニ屬ス、衛、今ノ衛輝府、刑、今ノ恩州、田、承嗣、魏、博、德、滄、瀛等ノ州ヲ鎮ス、〔魏〕河、屬ス、即チ魏郡〔博〕山東ニ屬ス、今ノ博、東ニ屬ス、〔滄〕河東ニ屬ス、〔瀛〕河、即チ河間、李懷仙、盧龍ヲ鎮ス、〔盧龍〕出、龍ト号ス、節度、幽、涿、營、莫、朝廷兵革ヲ平、薊、媯、檀、等ノ州ヲ鎮ス、朝廷兵革ヲ厭苦シ、無事ヲ苟冀ス、曰テ之ニ授ク、

〔諸鎮〕通盤ノ注ニ、安史ノ亂ニ、以、肅宗長安ニ幸シ、河北ノ地ヲ分テ、後、將、府、授、ス、後、速、戰、因、ニ、效、ス、肱、戰、相、依、リ、土、地、ヲ、以、テ、子、孫、ニ、傳、フ、之、ヲ、藩、鎮、ト、謂、フ、河、朔、朝、ハ、北、ナ、リ

〔切齒〕怒ヲ元振ニ、街ニ

諸鎮、射ヲ黨為、河朔敢テ朝命ヲ抗ス、此ニ始ル、○廣徳元年、吐蕃入寇ス、上、陝州ニ出奔ス、吐蕃、長安ニ入ル、関内ノ副元帥郭子儀、之レヲ撃ツ、吐蕃進去、○二年、宦者程元振ヲ流ス、元振、初ノ李國輔ニ附ス、輔國死ス、元振、權ヲ專ニス、自ラ恣ナル尤甚、諸將ノ大功アル者ヲ忌テ、皆之ヲ害セシ、ト欲ス、吐蕃入ル、元振、掩蔽ノ時ヲ以テ奏セス、上ノ狼狽ヲ致ス、中外切齒ス、是ニ至テ、秦州ニ流ス、〔秦州〕西南○

代宗 空

光弼至ラス、郭威名ニ服ス、郭子儀ト名ヲ齊フス、故ニ世ヲ郭李ト稱ス、自ラ其鎮ノ事ヲ掌トシテ、詔ヲ回テ懐王ヲ授ク、平盧節度使ヲソラシム、後凡ソ鎮ヲ領目テ以テ之ヲ授クト、皆此ニ倣ヘ、二虜回統、吐蕃、陸カラス、二虜懐思、カ死テ、聞テ、長テ争テ、相睦カラス、二虜居ル、二虜牙將、李光瓚、令

臨淮王、李光弼卒ス、上ノ陝ニ幸スル、光弼、至ラス、上之ヲ撫スル、加厚、素ヨリ子儀ト名ヲ齊ス、徐州ニ在ルニ及テ、兵ヲ擁ノ朝セス、麾下諸大将復タ尊長セス、光弼、愧恨、疾ヲ成ノ死ス、○二虜永泰元年、平盧ノ李懷王、節度使侯希逸ヲ逐テ、自ラ留後ニ知タリ、詔ヲツテ、回テ之ヲ授ク、名ヲ正キ、賜フ、○二虜叛將、僕固懷恩、二虜懷恩、姓回統、吐蕃ヲ誘入冠ス、二虜初、二虜李光弼、朔方ノ節度使ト為ル、曾平、二虜仲、二虜功、二虜樹、二虜恃、二虜テ、二虜外、二虜回、二虜統、二虜ニ、二虜交、二虜テ、二虜叛、二虜ス、二虜内、二虜ニ、二虜郭

威名ニ服ス、郭子儀ト名ヲ齊フス、故ニ世ヲ郭李ト稱ス、自ラ其鎮ノ事ヲ掌トシテ、詔ヲ回テ懐王ヲ授ク、平盧節度使ヲソラシム、後凡ソ鎮ヲ領目テ以テ之ヲ授クト、皆此ニ倣ヘ、二虜回統、吐蕃、陸カラス、二虜懐思、カ死テ、聞テ、長テ争テ、相睦カラス、二虜居ル、二虜牙將、李光瓚、令

子儀ヲ名シ、涇陽ニ屯セシム、二虜涇陽、二虜安、二虜西、二虜ニ、二虜屬、二虜懷、二虜恩、二虜道、二虜ニ、二虜死、二虜ス、二虜回、二虜統、二虜吐、二虜蕃、二虜兵、二虜ヲ、二虜合、二虜ノ、二虜涇、二虜陽、二虜ヲ、二虜圍、二虜ム、二虜ニ、二虜虜、二虜長、二虜ヲ、二虜争、二虜テ、二虜睦、二虜カ、二虜ラ、二虜ス、二虜子、二虜儀、二虜之、二虜レ、二虜ヲ、二虜知、二虜リ、二虜乃、二虜チ、二虜人、二虜ヲ、二虜遣、二虜シ、二虜回、二虜統、二虜ニ、二虜說、二虜テ、二虜共、二虜ニ、二虜吐、二虜蕃、二虜ヲ、二虜擊、二虜シ、二虜ト、二虜欲、二虜ス、二虜ト、二虜是、二虜ヨ、二虜リ、二虜先、二虜キ、二虜懷、二虜思、二虜回、二虜統、二虜ヲ、二虜欺、二虜テ、二虜子、二虜儀、二虜已、二虜テ、二虜ニ、二虜死、二虜ス、二虜ト、二虜謂、二虜ス、二虜使、二虜至、二虜ル、二虜回、二虜統、二虜信、二虜セ、二虜ス、二虜曰、二虜久、二虜郭、二虜公、二虜在、二虜ラ、二虜ハ、二虜見、二虜ヲ、二虜得、二虜ヘ、二虜キ、二虜カ、二虜ト、二虜使、二虜還、二虜テ、二虜報、二虜ス、二虜子、二虜儀、二虜教、二虜騎、二虜ト、二虜出、二虜ツ、二虜人、二虜ヲ、二虜ノ、二虜傳、二虜呼、二虜セ、二虜シ、二虜ノ、二虜テ、二虜曰、二虜久、二虜令、二虜公、二虜來、二虜ル、二虜ト、二虜回、二虜統、二虜大、二虜ニ、二虜驚、二虜久、二虜藥、二虜葛、二虜羅、二虜弓、二虜矢、二虜ヲ、二虜執、二虜テ、二虜陣、二虜前、二虜ニ、二虜立、二虜ツ、

以周礼天官醢
 人糝食ノ注ニ
 糝食ハ菜醢蒸
 ナリ、疏ニ曰ク
 今ノ煮菜之ヲ
 蒸菜ト謂カ若
 キナリ
 胡椒味平シ、性
 温、状、肥、李ノ如
 シ、西戎及ヒ南
 海ノ諸国ニ生
 ス、藥ニ入ルヘ
 シ、斛ニ斗ヲ、斛
 ト曰フ
 騶從車駕及ヒ
 隷卒ヲ謂フナ
 リ、甚盛ハ衆多
 ヲ言フナリ

不軌ヲ奏ス、遂ニ之ヲ誅ス○七年、盛
 龍ノ將、李懷瓊、朱希彩ヲ殺シ、朱泚ヲ
 以テ、鎮ヲ領セシム、詔ノ曰テ之ヲ授
 ク○十年、朱泚、弟滔ヲ以テ鎮ヲ領セ
 シ、ノ、入朝ス○十二年、元載、不軌ヲ告
 ルヲ告ル者アリ、深、憫ノ死ヲ賜フ、其
 家ヲ籍ス、胡椒八百斛ニ至ル、他物長
 ニ称ス、○楊綰、常袞ヲ以テ同平章事
 トス、綰、素ヨリ清儉、制下ス、郭子儀、方
 ニ宴ス、坐中ノ聲樂、五令ノ四ヲ減ス、
 京兆ノ尹、黎幹、騶從甚盛ナリ、即日ニ

節度使李忠臣
 廣德即位ノ臣
 年ニ改元

之ヲ省キ、止、十騎ヲ存ス、綰、相ク、ルニ
 月ニノ、卒ス、上、之ヲ痛悼ノ曰ク、天ナ
 ルカ、朕カ太平ヲ致スヲ欲セス、何ソ
 朕カ揚、綰ヲ奪フノ速ナルヤト○十
 四年、田承嗣、卒ス、姪、悅、之、ニ代ル○
 淮西ノ將、李希烈、節度使ヲ、逐フ、詔ソ
 目テ鎮ヲ以テ希烈ニ授ク○上、在位
 十八年、改元スル者三ツ、曰ク、廣德、永
 泰、大曆、崩ス、太子立ツ、是ヲ德宗皇帝
 ト為ス

德宗皇帝名ハ适、雍王ヨリ、太子ト為ル

欺罔ヲ以テ貶
 サラシムル是時郭
 子儀朱泚皆軍
 功ヲ以テ相ト
 為ルト雖氏朝
 政ニ預ラズ衰
 獨リ政事堂ニ
 居リ人ニ代
 リ名ヲ署シ奏
 人の中書舍人崔
 祐甫少尹ト為
 南ノ少尹ト為
 ス既ニ貶スニ
 人表ソ其罪ニ
 非ルヲ言フ上
 問ス卿言フキニ
 言ス貶ス可シ
 ト今罪ニ非ス
 ト云フハ何ノ
 ヤトニ人初ヨ
 リ知ラスト對
 ス遂ニ衰ヲ貶

是ニ至テ位ニ即ク○常袞欺罔ヲ以
 テ敗セラシ崔祐甫同平章事タリ祐
 甫時望ヲ收ント欲ス未夕二百日ナ
 テサルニ官ニ除スル者八百人上ノ
 曰ク人卿カ用ユル所口多ク親故ニ
 涉ルト諺ル何ソヤト對テ曰ク臣陛
 下ノ為ノニ人ヲ擇ス敢テ慎マスン
 ハアラス親ニ非ス故ニ非ンハ何ヲ
 以テカ其才行ヲ諳ソ之ヲ用ント○
 淄青ノ李正己淄州山東ニ屬ス昔川
郡青州九州ノ一今山東
 一屬ス即上ノ威名ヲ畏テ表ソ錢三
 十萬緡ヲ獻ス崔祐甫請テ使ヲ遣シ
 淄青ノ將士ヲ慰勞シ曰テ以テ之ヲ
 賜フ正己慚服ス天下以為ク太平廢
 幾ハ望ムヘシト○上方ニ精ヲ劬シ
 治ヲ求ム不次ニ人ヲ用ユ祐甫揚
 薦ム司馬ヨリ除セラレテ同平章
 事為ル既ニノ祐甫病テ事ヲ視ス○
 建中元年始テ西稅ノ法ヲ作シ唐初
 ノ賦歛ノ法田アレハ則チ租アリ身
 アレハ則チ庸アリ戸アレハ則チ調
 アリ玄宗ノ末激籜蕩壞ル至德ニ兵

ノ朝州ノ刺史
 ト為スノ次ヲ
 不次品ノ但行
 以テセズ但行
 實ヲ郡ニ佐司
 馬官ヲ掌ト即
 ルヲ判ナリ揚
 炎時ニ道州ノ
 司馬少リ
 兩稅夏ノ稅秋
 ノ稅至德肅宗
 ノ年号

十萬緡ヲ獻ス崔祐甫請テ使ヲ遣シ
 淄青ノ將士ヲ慰勞シ曰テ以テ之ヲ
 賜フ正己慚服ス天下以為ク太平廢
 幾ハ望ムヘシト○上方ニ精ヲ劬シ
 治ヲ求ム不次ニ人ヲ用ユ祐甫揚
 薦ム司馬ヨリ除セラレテ同平章
 事為ル既ニノ祐甫病テ事ヲ視ス○
 建中元年始テ西稅ノ法ヲ作シ唐初
 ノ賦歛ノ法田アレハ則チ租アリ身
 アレハ則チ庸アリ戸アレハ則チ調
 アリ玄宗ノ末激籜蕩壞ル至德ニ兵

發

頃

一ノ史界詳解卷之七

唐肅宗

卷之七

之ニ代ル○楊炎、盧杞、同平章事タリ、
炎、未タ幾クナラス、罷ム、杞、藍面魏
色、口弁アリ、上之ヲ悦フ○尚父大尉、
中書令、汾陽ノ忠武王、郭子儀卒ス、子
儀、身ヲ以テ天下ノ安危ヲ為ス者、殆
シト三十年、功、天下ヲ蓋フ、而氏主、疑
ハス、位、人臣ヲ極ム、而ノ衆疾マ、嘗
テ使ヲメ、魏博ニ至ラシム、田承嗣、西
望シテ之ヲ拜メ曰ク、茲、滕人ニ屈セ
サル久シ、今、公ノ為メニ拜スト、中書
令ヲ授スル、凡ソニ十四考、家人三千

是ニ至ル、九テ
二十、四考、八子
七、皆、姓名、未タ
詳ナラス、皆頭
也、皆朝廷ノ貴
頭官トスル、額
ノ點、三、通、蓋
五ニ作ル

人、八子七婿、皆頭ル諸孫數十人、安ヲ
問フコトニ、盡ク弁スル能ハス之ヲ
額スルノ、年八十三ニ、終フ○平
盧ノ李正己卒ス、子納自ラ鎮ヲ領ス
朱滔、田悦、王武俊、李納、先後、皆反ス○
三年、四人皆自ラ王ト称ス、朱滔ハ、冀
田悦ハ、魏王ト称シ、王武俊ハ、趙王トシ、
称シ、李納ハ、齊王ト称シ、周ノ正朔ヲ奉
仍リ、昔ノ諸侯ノ稱ノ如ク、朝ヲ共ニ
如シ、約ノ如ク、主ト為テ、孤ト称ス、
之ヲ伐ツ、滔、盟主ト為テ、孤ト称ス、
俊、悦、納、寡人ト称ス、居ル所、堂ヲ殿
ト曰ス、処、分、令、妃ト曰フ、群下ノ上、
フ、殿ト曰フ、各、其、治ヲ置キ、元帥ヲ州
府ト曰フ、為、各、守ヲ置キ、元帥ヲ州

卷四 頃
トハ、見、畢、年、終、ト
唐 徳宗 七十

〔瓊林大盈〕禁内ノ二庫ノ名ナリ、德宗、行宮ノ庶下ニ於テ、私ニ貢物ヲ蔵テ、大盈ノ榜ノ瓊林之ヲ行宮奉天ニ在リ、陸贄諫テ云ク、陸贄以爲賞未タ行ハス、賚未タ行ハス、ノ、速ニ私ニ庫ヲ別ニセハ、則テ、士卒怨望ノ、復タ、乃チ上疏、ソ、之ヲ諫ム、〔榜〕木片ニ題署ス、ル、榜ト曰フ、ア、〔反ス〕赴、援ニ見

李晟、兵ヲ率ヒテ起キ、援ク、渾瑊、泚ヲ撃テ、之ヲ破ル、奉天ノ圍解ク、李懷光難ニ赴ク、亦タ泚カ兵ヲ破リ、奉天ニ至ル、入テ、盧杞ノ姦ヲ解ント欲ス、杞之レヲ隔ツ、入テ見ユルヲ得ス、ノ、行ル、表ヲ上ツリテ杞カ悪ヲ暴ハス、衆論亦喧騰ム、杞ヲ咎ム、上、已ラ得ス、之ヲ速貶ス、司馬ト新州ノ〇興元元年、大赦ス、陸贄上ニ勸メテ、已レテ罪ノ以テ天下ニ謝セシム、奉天、下タス、所口ノ書詔、驕將悍卒モ之ヲ聞テ、感激

ニルヲ得サルヲ以テ故ニ反ス、〔露布直ニ〕復シ、旗竿ニ書シ、露シ、布テ封テ、露シ、以テ中外ニ示ス、〔瓊園〕瓊ハ、陵寢ヲ謂フナリ、ハ、堂ヲ謂フナリ、古ハ、宗廟ナリ、廟ヲ制シ、後ニ寢ヲ制ス、秦ニ至テ、始テ寢ヲ出シ、墓側ニ起ス、故ニ陵上ヲ寢殿ト稱ス、衣冠凡杖象生ノ具アリ、以テ新物ヲ薦ム

シテ、涕ヲ揮ハサルナシ、王武俊、田悅、李納、表ヲ上テ罪ヲ謝ス、是歳、王武俊ヲ去、〇李希烈、大楚皇帝ト僭号ス、〇瓊林大盈庫ヲ行宮ニ置ク、陸贄諫テ其榜ヲ去ツ、〇李懷光、反ス、上、梁州ニ奔ル、〇魏博ノ田緒、田悅ヲ殺シ、自ラ軍府ヲ領ス、〇李晟、長安ヲ克復ス、朱泚走ル、其將之レヲ斬テ以テ降ル、晟、露布ノ行在ニ至テ曰ク、臣已テ宮禁ヲ肅清シ、寢園ニ祇謁ス、鐘簾移サス、廟貌改ノ如シ、上、之ヲ覽テ泣

〔隋ラリ〕建中四年、李希烈又、
盧杞、顔真卿、欲、
建、議、請、テ、曰、
若、信、往、テ、論、サ、
シ、ハ、師、ヲ、勞、
セ、ス、ハ、定、ム、可、
シ、ト、詔、ノ、可、
ス、此、レ、盧、杞、ノ、
為、元、年、陷、ラ、ル、
〔真元元年云々〕
杞、先、馬、ニ、殿、セ、
ラ、ル、是、ニ、至、テ、
敬、ニ、遇、フ、吉、州、
ノ、長、史、ニ、移、ル、
人、ニ、謂、テ、曰、ク、
吾、レ、必、ス、再、ハ、
シ、ト、未、タ、再、ハ、

テ、曰、ク、天、李、晟、ヲ、生、シ、以、テ、社、稷、ノ、為、
ニ、ス、朕、カ、為、ノ、ニ、非、ル、ナ、リ、ト、○車、駕、
長、安、ニ、還、ル、○顔、真、卿、李、希、烈、カ、為、ノ、
ニ、殺、サ、ル、是、ヨ、リ、先、キ、真、卿、盧、杞、カ、為、
ノ、ニ、陷、ラ、ル、希、烈、ノ、所、ニ、奉、使、セ、シ、ム、
人、言、フ、一、元、老、ヲ、失、フ、國、家、ノ、為、ノ、ニ、
羞、ト、賊、中、ニ、至、ル、之、ヲ、留、ム、將、ニ、二、歲、
ナ、ラ、ン、ト、ス、屈、セ、ス、竟、ニ、賊、ノ、為、ノ、ニ、
縊、ラ、ル、○貞、元、元、年、盧、杞、量、移、セ、ラ、レ、
テ、將、ニ、再、ヒ、入、ン、ト、ス、而、ソ、卒、ス、○幽、
州、ノ、朱、滔、卒、ス、○馬、燧、及、ヒ、諸、軍、河、中、

ク、ナ、ラ、ス、上、果、
ノ、用、ア、ス、州、ノ、
刺、史、ト、為、ス、
高、可、カ、ス、遂、ニ、
杞、ヲ、以、テ、遣、州、
ノ、別、駕、ト、為、ス、
而、ノ、卒、ス、

ヲ、平、ク、〔河中〕府、山西、屬、李、懷、光、縊、死、
ス、○二、年、淮、西、ノ、將、陳、仙、奇、李、希、烈、ヲ、
殺、ス、以、テ、降、ス、吳、少、誠、仙、奇、ヲ、殺、ス、朝、
廷、目、テ、少、誠、ヲ、以、テ、鎮、ヲ、領、セ、シ、ム、○
三、年、張、延、賞、同、平、章、事、タ、リ、是、ヨ、リ、先、
キ、吐、蕃、ノ、尚、結、贊、塩、夏、州、ニ、拠、ル、〔鹽州〕
ニ、屬、李、晟、嘗、テ、其、一、堡、ヲ、破、ル、渾、滅、馬、
燧、各、兵、ヲ、擧、テ、之、ニ、臨、ム、懼、テ、和、ヲ、請、
フ、辭、ヲ、卑、フ、シ、礼、ヲ、厚、フ、ノ、馬、燧、ニ、求、
ム、燧、信、ノ、朝、ニ、請、フ、晟、曰、ク、我、狄、信、ナ、
シ、之、ヲ、擊、ツ、ニ、如、カ、ス、ト、延、賞、晟、ト、隱、

卷之... 唐... 三

數和ヲ便ト言
乙其謀ニ反ト
リト欲ハソルナ
涼ニ盟ハシ平
吐蕃、渾瑊ヲ得
テ、會盟使ト為
ン、ト欲メ之ヲ
詐リ、誘テ、曰ク
渾待中、信厚、異
域ニ聞ユ、請フ
必ス之ヲシメ、盟
ヲ主トシ、信メ
ン、ト帝之ヲ信メ
ス、會盟使ト為
其盟ハ却ス、將
ルニ當テ、兵
ヲ伏テ、渾瑊ヲ
執シ、ト欲ルニ
リ、
遂ニ

アリ、數和ヲ便ト言フ、渾瑊ヲノ吐蕃
ト平涼ニ盟ハシ、吐蕃、盟ヲ却ス、瑊
走リ免ル、吐蕃、晟、瑊、ヲ畏ル、曰ク、計
ヲ以テ此三人ヲ却テハ、則チ唐ハ、音
ル可キナリト、是ニ於テ、晟ヲ離間ス、
瑊ニ曰テ、以テ盟ヲ求ム、瑊ヲ執ヘ以
テ、瑊ヲ賣リ、供テ罪ヲ得セシメテ、曰
テ、兵ヲ縱テ、直ニ長安ヲ犯シト欲ス、
會瑊ヲ失ノ止ム。○李泌、同平章事ト
リ、上、泌ト從容ニ、即位以來ノ宰相ヲ
論ス、入、盧杞ハ姦邪ナリト言フ、朕、殊

託キ以テ盟ヲ
求メ、則テ、瑊
ヘハ、得ント
罪ヲ奉天ニ奔
建中ノ年号
陸贄、
贄ノ姦邪ヲ論
ス、器テ、太
ノ器、客ト為
猶切ノコトキ
ナリ、言ヲ盡セ
シ、諫ヲ以テ、言
ト為シ、之ヲ言

ニ覺ヘスト、泌カ曰ク、此レ乃姦邪ト
ル所以シナリ、備之ヲ覺ラハ、豈ニ建
中ノ亂アラシヤト、泌、謀畧アリ、而
好テ神仙ヲ談ス、詭誕ナリ、故ニ世ノ
為ノニ輕セラレ、相タル未夕三歳ナ
ラス、ソ卒ス。○八年、陸贄、同平章事ト
リ。○九年、大尉、中書令、西平忠武王、李
晟、卒ス。○十年、陸贄、贄、ム。○十一年、贄
ノ忠州ノ別駕ニ貶ス、贄、奉天ヨリ以
來、カラ宣ル最モ多シ、事ニ隨ク、論諫
シ、百奏ヲ剴切ニス、帝、言ヲ盡セシラ

陸贄 貞元 德宗 李泌

〔白麻〕詔敕ヲ馬
不紙、儒林傳ニ
蔡倫木ノ屑ヲ用
ノ頭、弊布ヲ用
セ、紙ヲ為シ、
唐制ニ、中書舍
人、文書詔令ヲ
掌トシ、之ヲ外
掌トシ、謂フ、
制トシ、謂フ、
士、草ノ内ヲ用
之ヲ、白麻ヲ用
〔國子司業〕官、
酒ニ副貳シ、監
事ヲ通判スル
ヲ掌トシ、
ハ心勞トシ、
ナリ、百姓ヲ愛
スルヲ謂フ、
科賦稅ヲ催、
是時、道

追々仇トス、又諸セラル、故ニ貶セラ
ル、初ノ夏、縣ノ陽城〔夏縣〕解州ニ屬、
士ヲ以テ徵サシ、諫議大夫ト為ル、皆
風采ヲ想望ス、職ニ在ル七年ニ、
ノス、韓愈、諍臣論ヲ作テ、之ヲ譏ル、是
ニ至テ、判度支、裴延齡、贊ヲ諧ス、城、諸
諫官ヲ率テ、闕ヲ守テ、延齡カ姦佞、贊
力無罪ヲ論ス、時ニ朝夕且ニ延齡ヲ
相トセントス、城、曰ク、脱延齡ヲ以テ
相ト為サハ、當ニ白麻ヲ取テ、之ヲ壞
ルヘシト、庭ニ慟哭ス、遂ニ沮ム、城ハ

州ノ賦稅、欲ラ
ス、觀察使、
責ス、州考功、
第ヲ上ルニ當
テ、城、自ラ著
考ハ下ノ下ト
為ス、其功ヲ
ナリ、其功ヲ
責ス、下ニ當
下ノ下ニ當
若キヲ謂フ、
ノ建中、即位
二年、庚申ニ
元〔姑息〕息ハ
ヲ安メ、苟容
ナリ、苟容テ
ナリ、取レテ

國子司業ニ左遷セララル、後、又道州ノ
刺史ニ貶セララル、〔道州〕湖南民ヲ治ム
ル、家ヲ治ムルカ如シ、自ラ其考ヲ書
ノ曰ク、撫字ハ心勞シ、催科ハ政拙シ、
考ハ、下ノ下ト〇十四年、淮西ノ吳少
誠叛ス、〇二十一年、上崩ス、在位二十
七年、改元スル者三ツ、曰ク、建中興元、
貞元、初ノ政、清明ナル者ニ歳、而ノ
把用ラレ、叛亂相繼ク、未年ハ姑息ノ
と、太子立ツ、是ヲ順宗皇帝ト為ス

德宗

冲冠嶺著十八史畧解卷之七終

